



Acty Truck

オーナーズマニュアル

クイックガイド

安全なドライブ

計器の見かた

各部の操作

オーディオ

運転

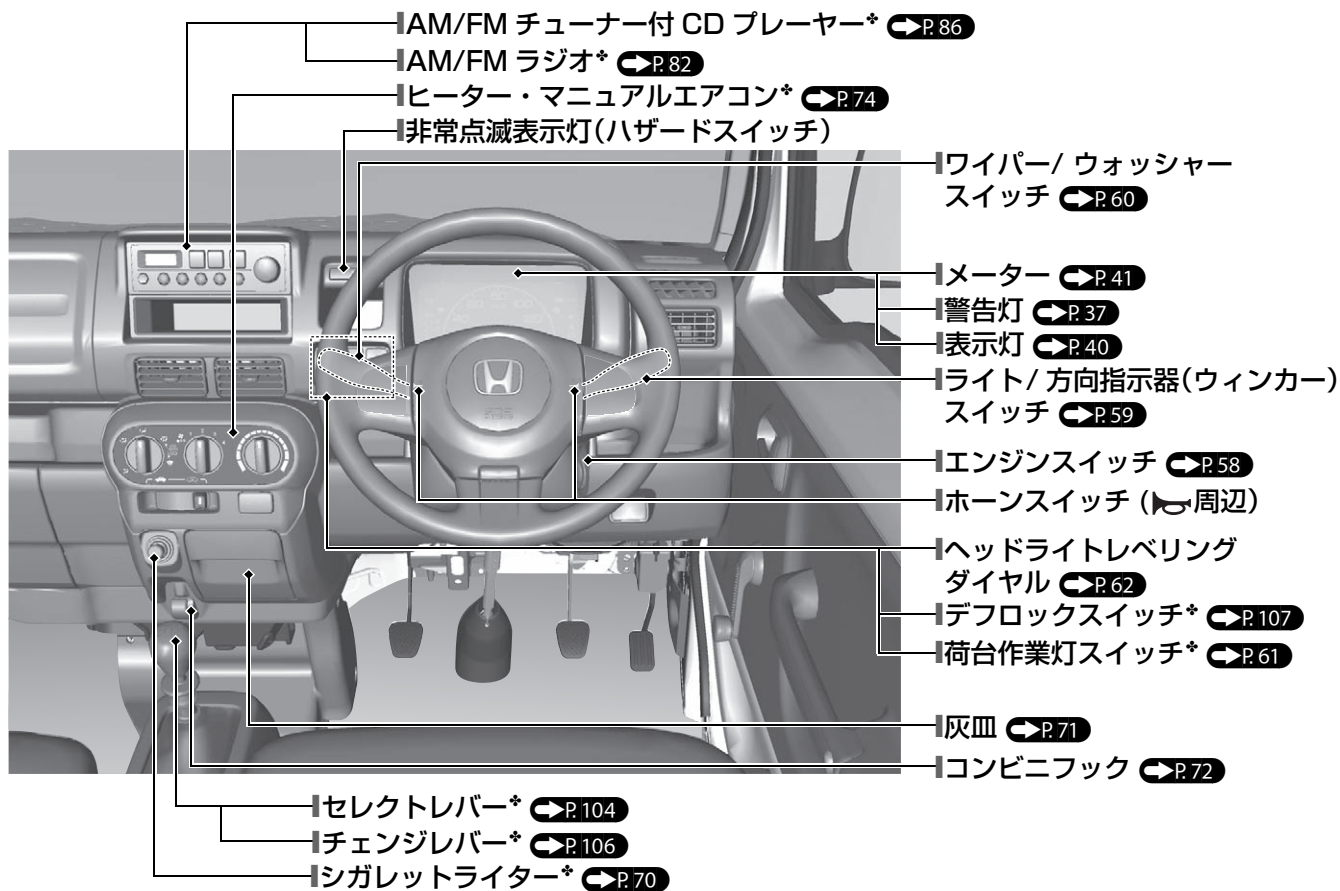
メンテナンス

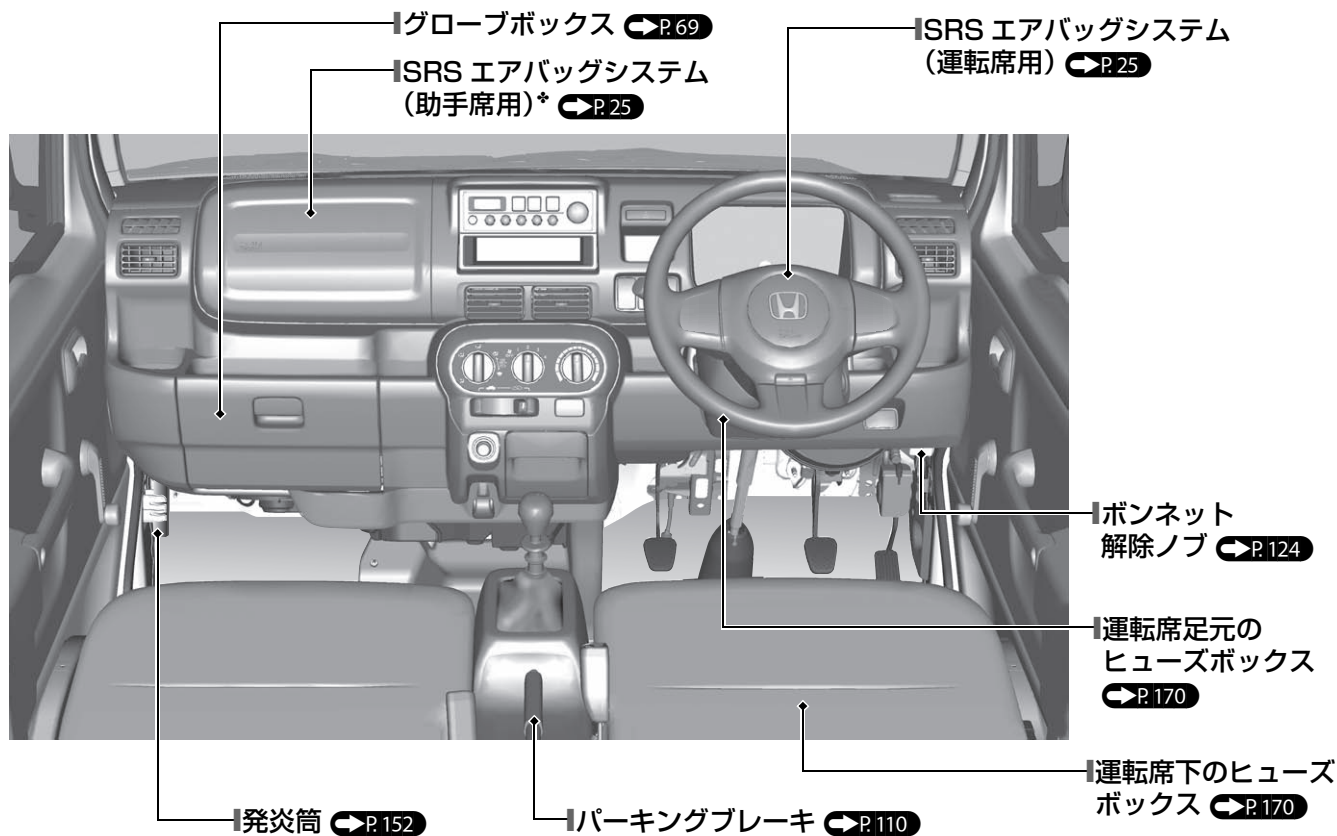
万一の場合には

資料

索引

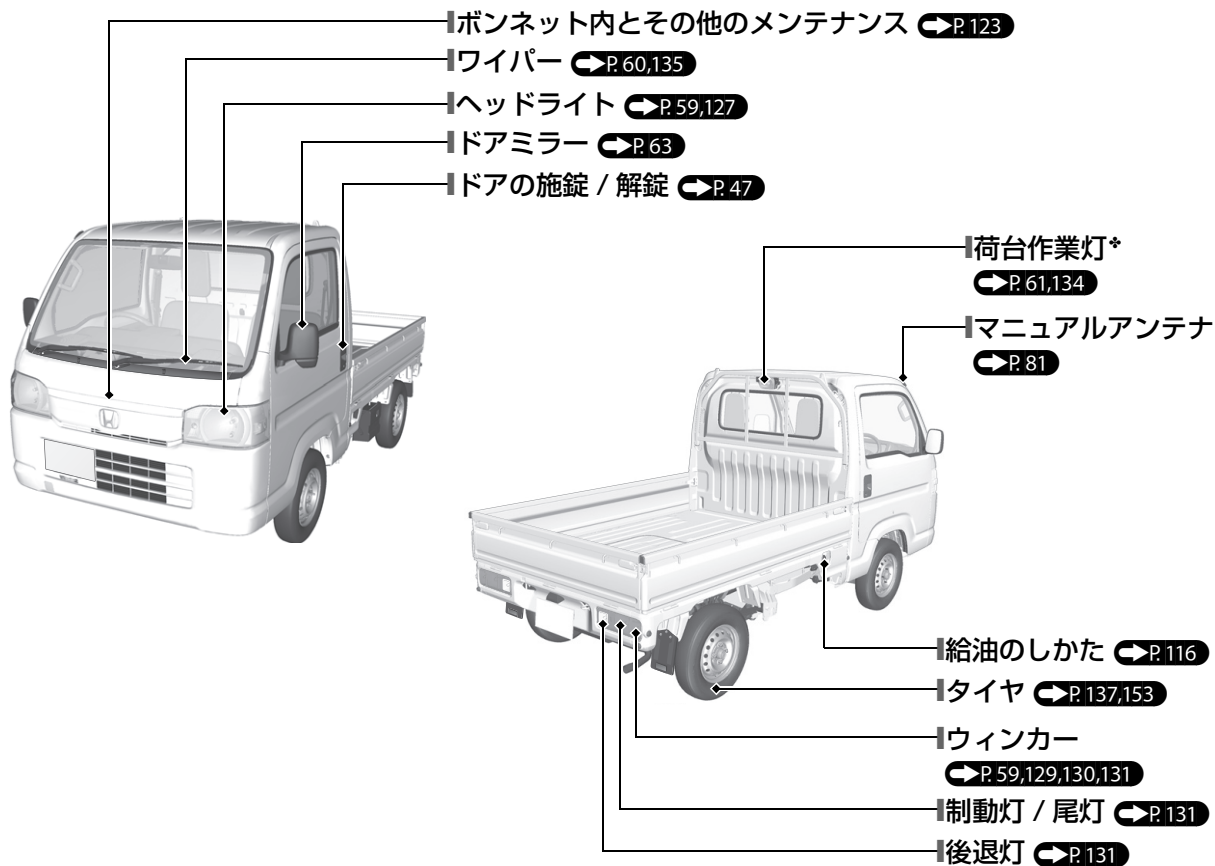
ビジュアル目次

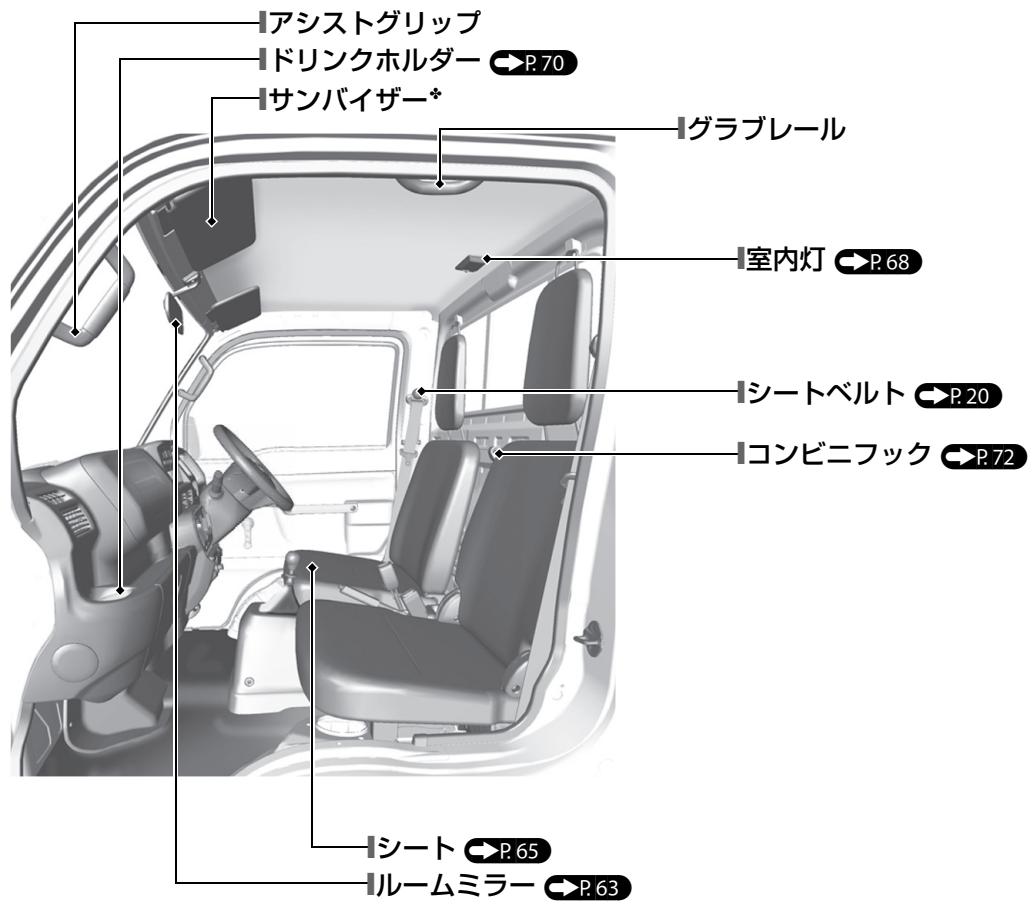




この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次





この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

安全なドライブ

➡P.18

運転を始める前の確認 ➡P.19

- 運転前にシートの位置、ミラー類の角度を調節します。



- 正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
- 妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

シートベルト ➡P.20

排気ガスについて ➡P.35

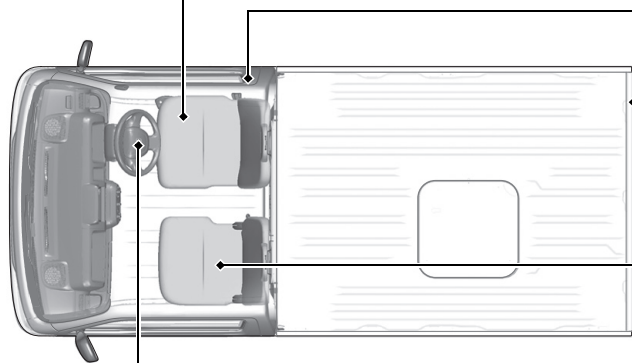
- 車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではエンジンを始動しないでください。

お子さまの安全 ➡P.29

- お子さまは後席のある車に乗せてください。
この車にお子さまを乗せることはおすすめしません。
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せる場合には、チャイルドシートをお使いください。

エアバッグ ➡P.25

- 万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。



計器の見かた ➡ P.36

警告灯 ➡ P.37

表示灯 ➡ P.40

メーター ➡ P.41

オートマチック車

スピードメーター

オド / トリップメーター



燃料計

警告灯 / 表示灯

EPS システム警告灯

方向指示器表示灯

油圧警告灯

充電警告灯

PGM-FI 警告灯

高温警告灯

低温表示灯

P
R
N
D
2
セレクトポジション表示灯
(トランスミッション
警告灯)*

マニュアル車

スピードメーター

オド / トリップメーター



燃料計

ライト表示灯

ハイビーム表示灯

ライト点灯表示灯

警告灯 / 表示灯

エアバッグシステム警告灯

シートベルト非着用警告灯

ブレーキ警告灯

ABS 警告灯

燃料残量警告灯

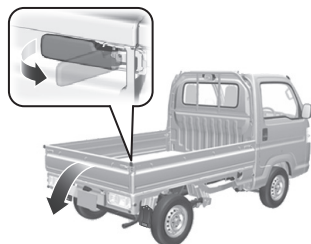
後輪差動制限装置
(リヤデフロック)
作動表示灯*

この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

各部の操作 ➡P.44

荷台ゲート ➡P.52

- 荷台ゲートは、レバーを引いて倒します。



ドアミラー ➡P.63

- 左右のドアミラーは、手で格納することができます。



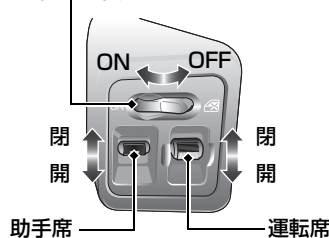
- ドアミラーの角度は、手で調節します。



パワーウィンドー* ➡P.56

- エンジンスイッチが **II** のとき、ウィンドーの開閉ができます。

メインスイッチ



- ON 全てのウィンドーが作動
- OFF 助手席のウィンドーが非作動

マニュアルウィンドー*

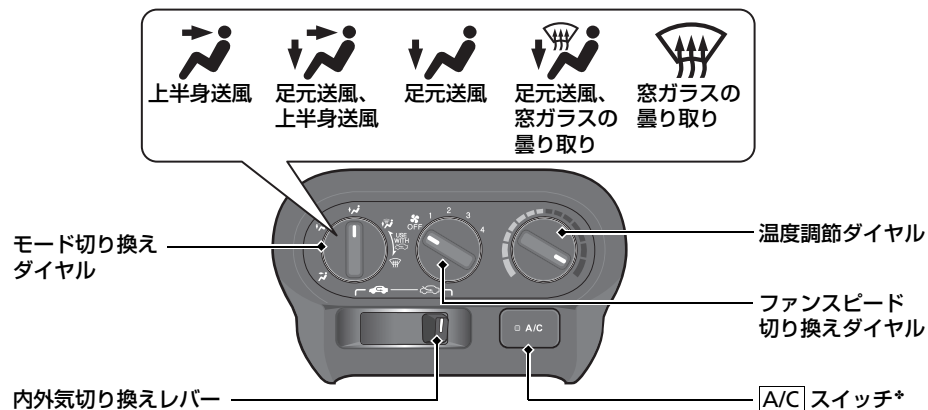
➡P.57

- ハンドルを回してウィンドーの開閉を行います。



ヒーター・エアコン*

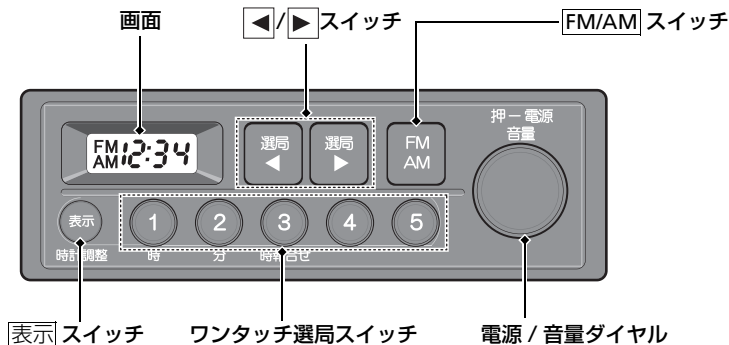
- ファンスピード切り換えダイヤルで風量を調節します。
- モード切り換えダイヤルで吹き出し口を選びます。
- 温度調節ダイヤルで吹き出し風の温度を調節します。
- ファンスピード切り換えダイヤルを **OFF** にすると、止まります。
- 前面ガラスの曇りを取るには、モード切り換えダイヤルを  にします。



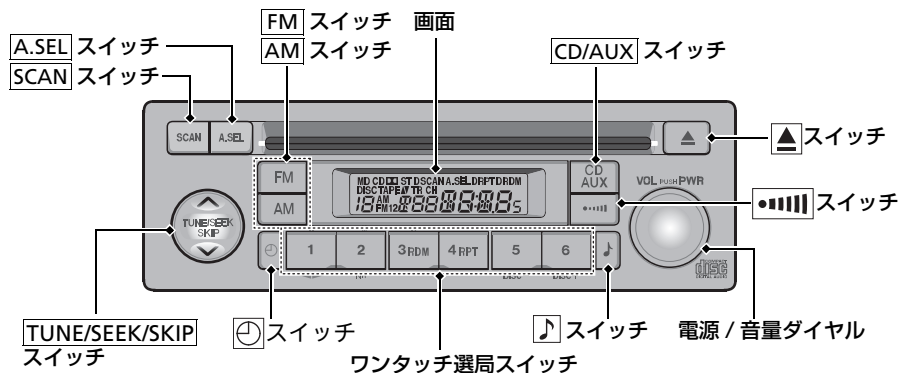
この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

オーディオ* ➡ P.79

AM/FM ラジオ* ➡ P.82



AM/FM チューナー付 CD プレーヤー* ➡ P.86



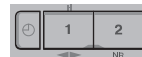
時計を合わせる ➡ P.45,46

- ① オーディオの **表示** または **⌚** を時間表示が点滅するまで押す。

AM/FM ラジオ装備車



AM/FM チューナー付 CD プレーヤー 装備車

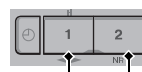


- ② 時刻を調整する。



「時」の調整

「分」の調整



「時」の調整

「分」の調整

時報合わせの場合は



時報と同時に押す



- ③ **表示** または **⌚** をもう一度押す。

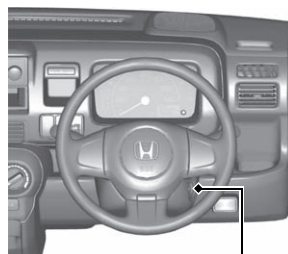


運転 ➡ P.95

マニュアル車 ➡ P.106

オートマチック車 ➡ P.103

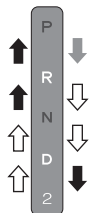
- セレクトレバーを「P」に入れ、ブレーキを踏みながらエンジンを始動します。



エンジンスイッチ

セレクトレバー

セレクトレバーの操作



- ブレーキペダルを右足で踏み、ボタンを押して操作
- ボタンを押して操作
- ボタンを押さずそのまま操作



- P** パーキング
駐車またはエンジンの始動
- R** リバース
車を後退
- N** ニュートラル
アイドリング状態
- D** ドライブ
通常走行
- 2** セカンド
2 速固定

ガソリンを入れる P.116

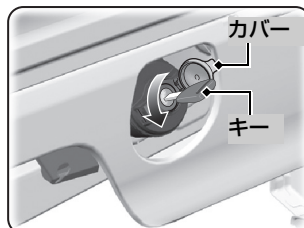
指定燃料：

無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン
(E10/ETBE22)

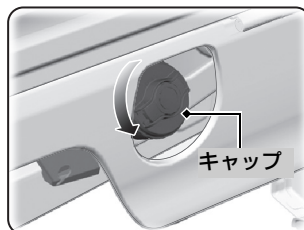
タンク容量：

37 リットル

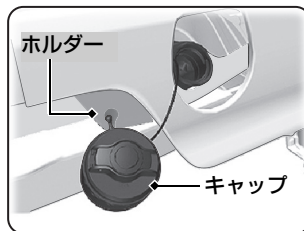
- 1** カバーを開けて、キーを確実に差し込んで回して解錠する。



- 2** キーを抜き取ってからキャップをゆっくり回して開ける。



- 3** キャップをホルダーにかける。



メンテナンス ➡P.119

ワイパーブレード ➡P.135

●拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。

バッテリー ➡P.123

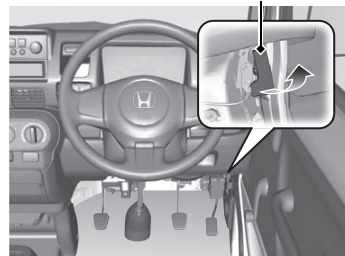
●バッテリーの点検を行います。

ボンネット ➡P.124,126,166

●冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。

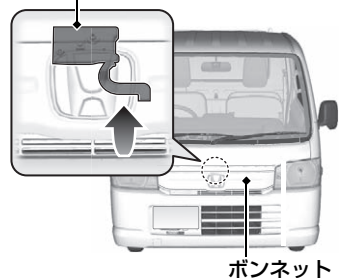
① 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。

解除ノブ



② レバーを上げボンネットを開ける。

レバー



ライト ➡P.127

- ヘッドライト、テールライト電球などの点検または交換を行います。
- 電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
- ヒューズの交換については、「万一の場合には」を参照してください。 ➡P.170

タイヤ ➡P.137

- タイヤ、ホイールを点検します。
- 降雪地域では、スノータイヤ、タイヤチェーンが必要です。

万ーの場合には ➡P.151

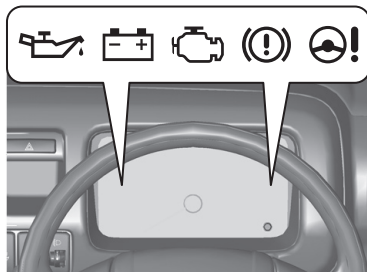
パンクした ➡P.153

- 安全な場所に停車し、スペアタイヤに交換します。



警告灯が点灯した ➡P.167

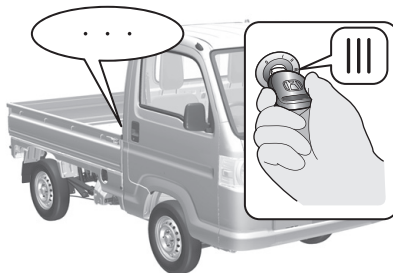
- 詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



エンジンが始動しない

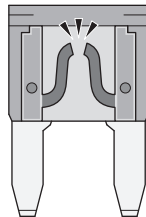
➡P.161

- バッテリーあがり考えられます。救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動します。



ヒューズが切れた ➡P.170

- 運転席の下と足元にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



オーバーヒートした ➡P.166

- 安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。



けん引してもらいたい

➡P.173

- 必ず専門業者に依頼してください。やむをえず4輪を接地したままけん引される場合は、取扱説明書にしたがってください。

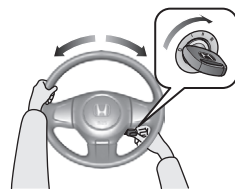


こんなときは

Q キーが **0** から **1** に回らない

A

- ハンドルがロックされていませんか？
- ハンドルを左右に回しながら、キーを回してください。



Q キーが **1** から **0** に回らない
(キーが抜けない)

A

- セレクトレバーが **P** 以外の位置になっていませんか？



Q ブレーキペダルを踏んだら
ガタガタと振動した

A

- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。
これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。
そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

Q キーレスエントリーでドアを解錠
したはずなのに施錠されている

A

- キーレスエントリー* で解錠してから、約 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。





運転席ドアを開けるとブザーが鳴る



- キーをエンジンスイッチに差し込んでいませんか？
- ライトを消し忘れていませんか？



走行するとブザーが鳴る



- 運転席シートベルトを着用していますか？
- パーキングブレーキを完全に戻していますか？



走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がる



- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。



レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか？



- プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。



危険

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの



警告

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



注意

指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス

お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。

なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

HondaおよびHondaが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

安全なドライブ P.18

安全なドライブのために 19 シートベルト 20 エアバッグ 25 お子さまの安全 29
排気ガスの危険性 35

計器の見かた P.36

警告灯と表示灯 37 メーターとオド / トリップメーター 41

各部の操作 P.44

時刻の設定 45 ドア 47 荷台ゲート 52 ウィンドー 56
ハンドルまわりのスイッチ 58 ミラー類 63 シート 65 室内灯 / 室内装備品 68
ヒーター・エアコン* 73

オーディオ P.79

オーディオ装置* 80 AM/FM ラジオ* 82 AM/FM チューナー付 CD プレーヤー* 86

運転 P.95

運転の前に 96 運転 98 プレーキ 110 駐停車 113
給油 115

メンテナンス P.119

メンテナンスの前に 120 ボンネット内とその他 123 電球 127 ワイパー 135
タイヤ 137 キーレスエントリー* 144 清掃 146 アクセサリーと改造 150

万ーの場合には P.151

工具、発炎筒 152 パンク 153 エンジンが始動しない 161 ジャンプスタート 162
セレクトレバーが動かない 165 オーバーヒート 166 警告灯が点灯 / 点滅した 167 ヒューズ 170
けん引 173

資料 P.176

仕様 177

安全なドライブ P.18

計器の見かた P.36

各部の操作 P.44

オーディオ P.79

運転 P.95

メンテナンス P.119

万ーの場合には P.151

資料 P.176

索引 P.179

安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を
確保してください。

安全なドライブのために	19
シートベルト	
シートベルトについて	20
シートベルトの着用	22
シートベルトの点検	24
エアバッグ	
エアバッグの種類	25
SRS エアバッグ	25
エアバッグシステム警告灯	28
エアバッグのお手入れ	28

お子さまの安全	29
乳幼児の安全	30
大きなお子さまの安全	33
排気ガスの危険性	
一酸化炭素について	35

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドアは完全に閉まっているか？
 - ▶ すべてのドアが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
■ 車内での施錠 P.51
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
 - ▶ 正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置の調節をしてください。
■ シート P.65
- 同乗者のシートも、安全が保たれているか？
 - ▶ インストルメントパネルからできるだけ離れるように、シートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。
■ シート P.65
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
 - ▶ 運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
■ シートベルトの着用 P.22
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
■ エアバッグ P.25
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
 - ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
■ お子さまの安全 P.29
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを **P** またはチェンジレバーを上り坂の場合 **1**、下り坂と平地の場合 **R** にしているか？
 - ▶ さらにタイヤに輪留めをすると効果があります。
■ シフト操作 P.104, 106

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。シートには三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

※シートベルトについて



警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

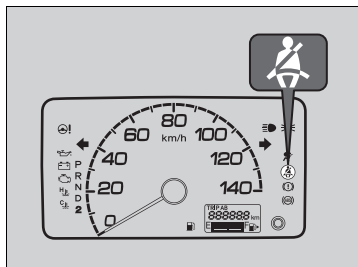
乗車中は正しい姿勢を保つ。

正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

シートベルトリマインダー



エンジンスイッチを **II** にしたときや走行したとき、運転席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。

シートベルトプリテンショナー

シートベルトプリテンショナーを装備しています。

シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。



※シートベルトリマインダー

運転席シートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。

オートマチック車

セレクトレバーを **R** に入れたときは後退位置警報装置のブザーが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。

※シートベルトプリテンショナー

⚠ 注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。

誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。

衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。

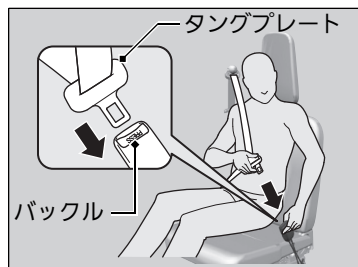
衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

シートベルトの着用



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないように注意します。

※シートベルトの着用

⚠ 注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。

シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

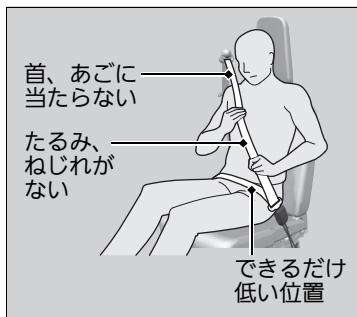
ベルトがくび、あご、顔などに当たらないように着用してください。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の **PRESS** を押してください。

そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。



4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。

▶ 肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。

▶ 腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。

▶ ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。

5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

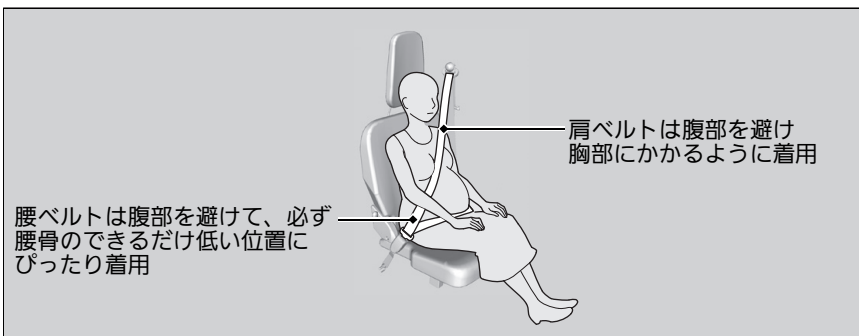
妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。

妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

⚠ 注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。

万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。



妊娠中のかたは以下の点に注意してください。

万一の衝突時にエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

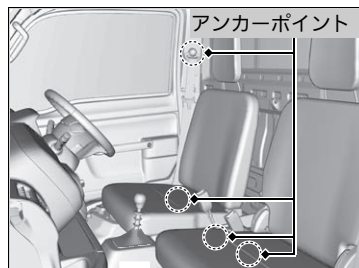
- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合はシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにする

シートベルトの点検

シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。
点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。
シートには三点式シートベルトが使われています。

※シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。

ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

🔧 シートベルトの清掃 P.147

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

エアバッグ

エアバッグの種類

エアバッグは、エンジンスイッチが **II** のときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。

- **運転席 SRS エアバッグ**：運転席シートの前方向エアバッグ
- **助手席 SRS エアバッグ***：助手席シートの前方向エアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメントレストRAINTシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

エアバッグの種類

⚠ 警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。

エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠ 注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。

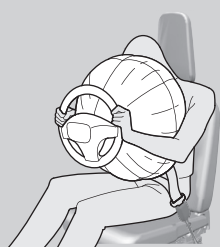
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。

エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

SRS エアバッグの作動

作動時



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRS エアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRS エアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
 - 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき
- 衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

※SRS エアバッグの作動

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。

SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。

SRS エアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。

この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。

- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

SRS エアバッグの作動

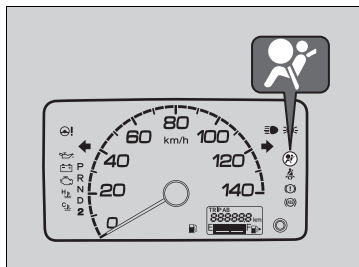
注意

SRSエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯で知らせます。



■エンジンスイッチを [II] にしたとき

エンジンスイッチを [II] にすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■異常が発生したとき

エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるとき点灯します。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合には Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。

また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

※エアバッグシステム警告灯



エアバッグシステム警告灯を無視しない。

エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

エンジンスイッチを [II] にしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

※エアバッグが作動し、膨らんだとき

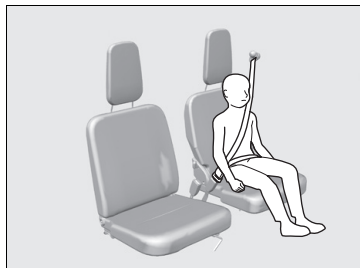
エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

お子さまの安全を守るために

お子さまはリヤシートのある車に乗せてください。

- ▶ この車にお子さまを乗せることはおすすめしません。SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。また、お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。

やむをえずお子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
 - ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に座せないでください。衝突したときに支えることができません。
正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 車外に手や顔、ものを出さない
 - ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないように注意してください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドーなどの操作は必ず大人が行う
 - ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドーなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
 - ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

助手席 SRS エアバッグ非装備車

- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
 - ▶ 乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。

※お子さまの安全を守るために

助手席 SRS エアバッグ装備車

警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けけないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRS エアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

助手席 SRS エアバッグ装備車

- 幼児にはチャイルドシートを使用する
 - ▶ やむをえず幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。

乳幼児の安全

乳児のチャイルドシート

助手席 SRS エアバッグ装備車

この車に設置することはできません。

助手席 SRS エアバッグ非装備車

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。

幼児のチャイルドシート

助手席 SRS エアバッグ装備車

助手席にチャイルドシートを設置すると、衝突したときに SRS エアバッグで強い衝撃を受けるおそれがあります。

やむをえずチャイルドシートを設置するときは、この取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグ非装備車

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、チャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。

※乳児のチャイルドシート

助手席 SRS エアバッグ装備車

⚠ 警告

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

※幼児のチャイルドシート

助手席 SRS エアバッグ装備車

⚠ 警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートをお選びください。

シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の3つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること

■選択の目安 P.32

- チャイルドシートが取り付け車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること
UN R44 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

■チャイルドシートの選びかた



注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

■シートベルトで固定するチャイルドシートについて

この車には様々なタイプのチャイルドシートが利用可能ですが、すべてのタイプが適当であるというわけではありません。

次の表を参照して、それぞれの着席位置でどのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ベルト固定タイプ チャイルドシート 重量区分	助手席 SRS エアバッグ装備車 助手席 SRS エアバッグ非装備車	
	座席位置 前席 助手席	
グループ 0 ～ 10kg	X	U
グループ 0 + ～ 13kg	X	U
グループ I 9kg ～ 18kg	UF	U
グループ II 15kg ～ 25kg	UF	U
グループ III 22kg ～ 36kg	UF	U

記号の説明

- U : 汎用型(ユニバーサル)チャイルドシートが取り付け可能です。
- UF : 汎用型(ユニバーサル)チャイルドシートが前向きに取り付け可能です。
- X : チャイルドシートを取り付けできません。

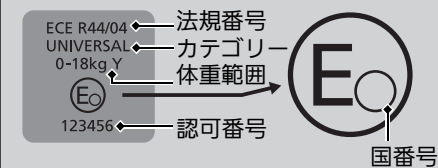
※シートベルトで固定するチャイルドシートについて

チャイルドシートに関する国連の安全基準である UN R44 に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。

チャイルドシートをご購入する際は、重量グループに一致したものをお選びください。

U と UF のチャイルドシートには、UN R44 認可表示と取扱説明書に UNIVERSAL (汎用) と案内されているものもあります。

EC 認可表示(例)



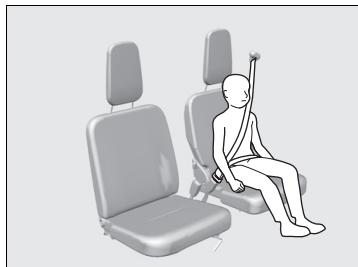
シートの種類や取り付けの向きにより固定金具(ロッキングクリップ)が必要になる場合があります。

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

大きなお子さまの安全

■ シートの使用について

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■ 確認項目

- お子さまのひざがシートの手前で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていただけるか？

▶▶ 大きなお子さまの安全

助手席 SRS エアバッグ装備車



警告

**三点式シートベルトが正しく着用できない
お子さまは助手席に乗せない。**

お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。

■ジュニアシートについて



ジュニアシートを使用する場合、安全のため、お子さまが使用に適した範囲に入っているか確認してください。

■やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- この取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

※ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。

以下の場合、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

❏一酸化炭素について



警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。

ガレージのドアを閉めたままエンジンを始動しないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にエンジンを始動してください。

計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、メーター類に関する情報を記載しています。



警告灯と表示灯

警告灯 37

表示灯 40

メーターとオド / トリップメーター

メーター 41

オド / トリップメーター 42

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	ブレーキ警告灯	- エンジンスイッチを II にすると数秒点灯したあと、消灯（パーキングブレーキをかけているときは点灯） - ブレーキフルード量が低下したときに点灯	- 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 - ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ☞ ブレーキ警告灯が点灯した P.168
	油圧警告灯	- エンジンスイッチを II にすると点灯し、エンジン始動で消灯 - エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯	走行中に点灯＝ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 ☞ 油圧警告灯が点灯した P.167
	PGM-FI 警告灯	- エンジンスイッチを II にすると点灯し、エンジン始動で消灯 エンジンを始動していないときは数十秒後消灯 - エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯	走行中に点灯＝高速走行を避けてただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 走行中に点滅＝枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。 ☞ PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した P.168
	充電警告灯	- エンジンスイッチを II にすると点灯し、エンジン始動で消灯 - バッテリーが充電されていないと点灯	走行中に点灯＝電気の消費量を減らすため、ヒーター・エアコンスイッチを OFF にし、対処してください。 ☞ 充電警告灯が点灯した P.167

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	トランスミッション警告灯 (セレクトポジション表示灯)*	- エンジンスイッチを II にすると数秒点灯したあと、消灯 - トランスミッションが異常のときに点滅	運転中に点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	シートベルト非着用警告灯	- 運転者がシートベルトをしないと点灯 - エンジンスイッチを II にしたときや走行中、運転者がシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	- シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 - シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。 ☑ シートベルトリマインダー P.21
	燃料残量警告灯	- 燃料の残量が少なくなると点灯 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ 6.5 リットルになったときです。 - 燃料計に異常があるときは点滅	- 点灯したら早めに給油してください。 - 点滅したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	高水温警告灯	- エンジンスイッチを II にすると数秒点灯したあと、消灯 - エンジンの冷却水の温度が上がると点滅し、さらに上がると点灯	走行中に点滅＝ゆっくり走行してください。 走行中に点灯＝ただちに安全な場所に車を停車し、エンジンを冷やしてください。 ☑ オーバーヒート P.166
	エアバッグシステム警告灯	- エンジンスイッチを II にすると数秒点灯したあと、消灯 - 下記のとき点灯 - エアバッグシステムの異常 - プリテンショナーシステムの異常	常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	- エンジンスイッチを II にすると点灯し、エンジン始動で消灯 - EPS システムの機能に異常があると点灯	- 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ☒ EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した P.169
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	- エンジンスイッチを II にすると数秒点灯したあと、消灯 - ABS が異常のときに点灯	- 点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ☒ ABS(アンチロックブレーキシステム) P.112

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識
	方向指示器表示灯	- 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 - 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅	- 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。  電球の交換 P.129,130,131
	ハイビーム表示灯	ヘッドライトを上向きにしたときに点灯	—
	ライト点灯表示灯	ライトスイッチが OFF 以外のときに点灯	ライトを点灯したままキーを抜くと、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。
	低水温表示灯	エンジン冷却水の温度が低いときに点灯	暖機を十分にした状態で、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーなどの異常が考えられます。Honda 販売店で点検を受けてください。
	後輪差動制限装置 (リヤデフロック) 作動表示灯*	- 差動制限装置がデフロック状態に切り換わると点灯  後輪差動制限装置(リヤデフロック)* P.107	—
	セレクトポジション表示灯*	現在のポジションで点灯	 シフト操作 P.105

メーター

メーターには、スピードメーター、燃料計などの種類があります。

■スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

■燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。
エンジンスイッチが **II** のとき表示されます。

☒燃料計

アドバイス

燃料計が **E** に近づいたら、早めに給油してください。

燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。
実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

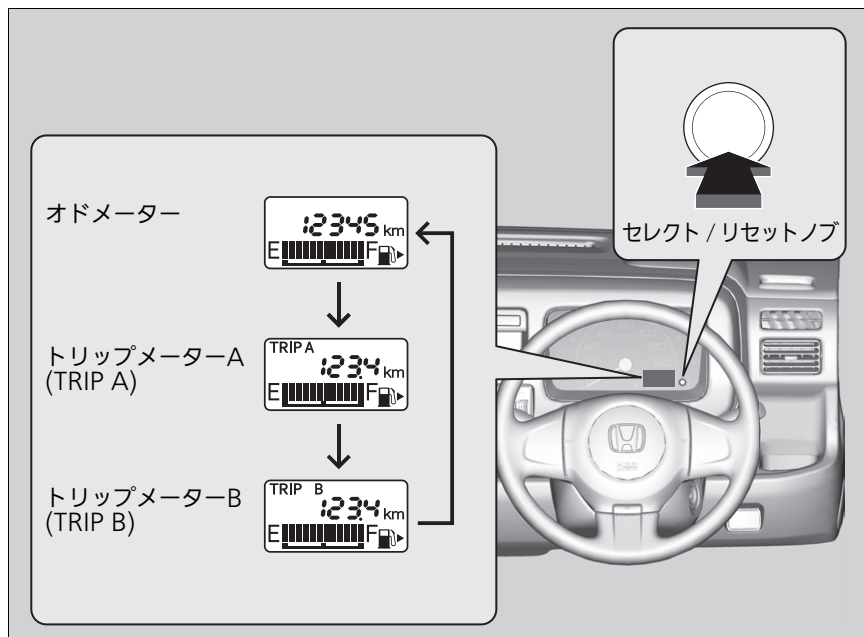
燃料補給後、エンジンスイッチを **II** にしてから正しい量を示すまで、しばらく時間がかかることがあります。

オド / トリップメーター

エンジンスイッチを **II** にするとオドメーターまたはトリップメーターが表示されます。

表示の切り換えかた

セレクト / リセットノブを押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



■ オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■ トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。

トリップ A と、トリップ B があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■ トリップメーターをリセットするには

トリップメーターが表示されている状態で、セレクト / リセットノブを押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

☒ トリップメーター

トリップ A とトリップ B は、セレクト / リセットノブで切り換えられます。

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

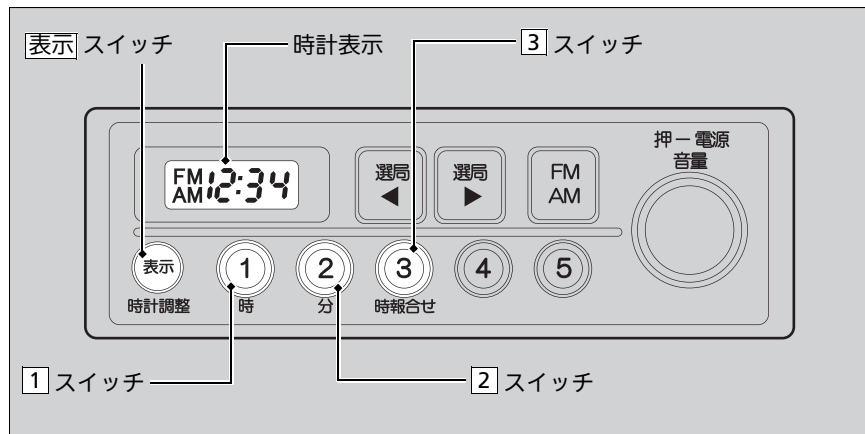
時刻の設定.....	45	荷台作業灯スイッチ*.....	61
ドアの施錠と解錠		ヘッドライトレベリングダイヤル.....	62
キーの種類と機能.....	47	ミラー類の調節.....	63
車外でのドアの施錠 / 解錠.....	49	シートの調節.....	65
車内での施錠 / 解錠.....	51	室内灯 / 室内装備品.....	68
荷台ゲートの操作.....	52	ヒーター・エアコン*	
荷物を積むときは.....	55	吹き出し口.....	73
ウィンドーの開閉.....	56	ヒーター・マニュアルエアコン* の	
ハンドルまわりのスイッチ操作		使いかた.....	74
エンジンスイッチ.....	58		
方向指示器(ウィンカースイッチ).....	59		
ライトスイッチ.....	59		
ワイパー/ ウォッシャー.....	60		

※：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

時刻の設定

時計はオーディオ装置に表示されます。

AM/FM ラジオ*



■時刻の設定

1. オーディオの電源がONのときに、**表示**を時計表示が点滅するまで押し続ける。
2. 時刻を合わせる。
時：**1**を押す
分：**2**を押す
3. **表示**をもう一度押す。

時刻設定が完了しました。画面に設定した時間が表示されます。

■AM/FM ラジオ*

時報に合わせて正時に設定するには

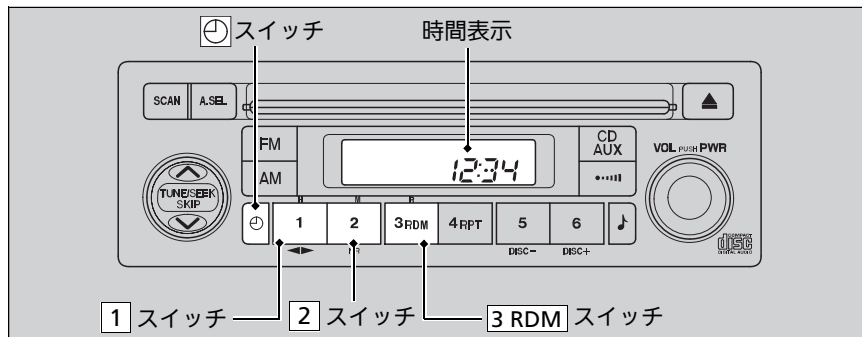
左記の操作で、時間表示が点滅しているときに、時報と同時に**3**を押します。

下記のように表示されている時間に応じた正時に設定されます。

1:00 ~ 1:29 の場合→ 1:00 に設定

1:30 ~ 1:59 の場合→ 2:00 に設定

AM/FM チューナー付 CD プレーヤー*



■表示の切り換え

オーディオの電源が ON のときに、オーディオ表示から時計表示に切り換えます。

1. [スイッチ] を押すたびに時計表示の ON/OFF が切り換わる。

■時刻の設定

1. 時計表示が ON のときに、[スイッチ] を時計表示が点滅するまで押し続ける。
2. 時刻を合わせる。
時：[1] を押す
分：[2] を押す
3. [スイッチ] をもう一度押す。

時刻設定が完了しました。画面に設定した時間が表示されます。

▶▶ AM/FM チューナー付 CD プレーヤー*

時報に合わせて正時に設定するには

左記の操作で、時間表示が点滅しているときに、時報と同時に [3 RDM] スイッチを押します。

下記のように表示されている時間に応じた正時に設定されます。

1 : 00 ~ 1 : 29 の場合 → 1 : 00 に設定

1 : 30 ~ 1 : 59 の場合 → 2 : 00 に設定

キーの種類と機能

この車には、以下のキーが付いています。キーの組み合わせは、車両のタイプにより異なります。



エンジンの始動、停止のほかに、ドア、フューエルキャップの施錠 / 解錠に使用できます。

■キーの種類と機能

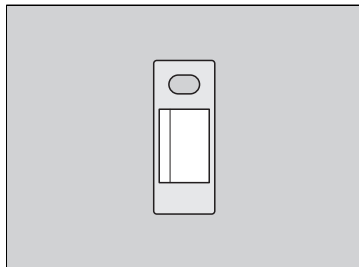
キーレスエントリー一体キー* の故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、高湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 砂や埃を避ける
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

キーレスエントリー一体キー* の電子部品が故障すると、リモート発信が作動しなくなることがあります。

キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

■キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

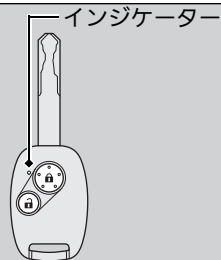
※キーナンバータグ

キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。

キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■キーレスエントリー*での施錠 / 解錠



キーレスエントリー一体キー

 施錠ボタン

 解錠ボタン



■施錠

施錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドアが施錠されます。

■解錠

解錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドアが解錠されます。

■キーレスエントリー*での施錠 / 解錠

30 秒以内にドアを開けてください。

キーレスエントリーで解錠操作をした場合、30 秒以内にドアを開けないと、再び自動的に施錠されます。

解錠ボタンを押すと、室内灯が点灯します。

室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠ボタンを押すと室内灯が点灯します。約30秒点灯し、徐々に暗くなります。30秒以内にキーレスエントリーで施錠すると、室内灯はただちに消灯します。

❏ 室内灯 P.68

キーレスエントリーは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

次の場合、キーレスエントリーは作動しません。

- エンジンスイッチが **0** 以外のとき
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき

ドアが開いているときは、キーレスエントリーで施錠できません。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときにインジケータが点灯しない場合は、電池切れです。

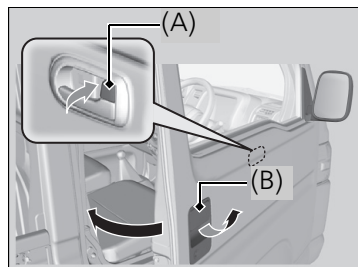
❏ 電池交換のしかた P.145

■キーを差し込んでの施錠 / 解錠



運転席ドアまたは助手席ドア* にキーを確実に差し込んで回します。

■キーを使わない施錠



■キーレスエントリー装備車

■キー閉じ込み防止装置

キーがエンジンスイッチに差し込まれていると施錠できません。

▶▶ キーを差し込んでの施錠 / 解錠

■キーレスエントリー装備車

■運転席ドアでのキー操作

運転席ドアにキーを差し込んで施錠 / 解錠すると、助手席ドアも同時に施錠 / 解錠されます。

▶▶ キーを使わない施錠

■キーレスエントリー装備車

運転席ドアで施錠すると、助手席ドアも同時に施錠されます。

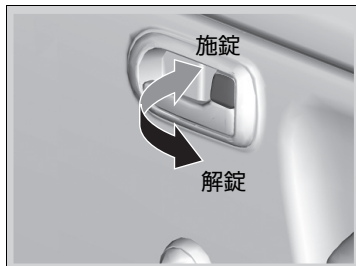
キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

ドアハンドルの引きかたが不十分なときや、半ドアの状態からドアを閉めたときは、施錠されないことがあります。

ドアハンドルを引いて施錠されていることを確認してください。

車内での施錠 / 解錠

■ ノブでの施錠 / 解錠



■ 施錠するには
ノブを押し込みます。

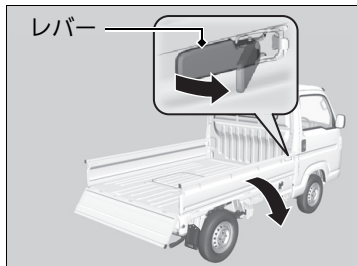
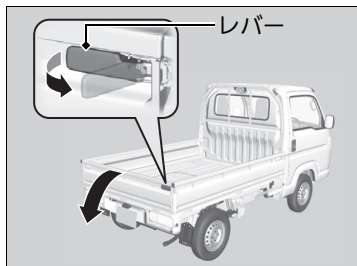
■ 解錠するには
ノブを引き出します。

※ ノブでの施錠 / 解錠

■ キーレスエントリー装備車

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、助手席
ドアも同時に施錠 / 解錠されます。

倒しかた



■テールゲート

1. レバーを引く。
▶ フックが外れます。
2. ゲートを手で支えて静かに倒す。

■サイドゲート

テールゲートと同じ要領で倒します。

※荷台ゲートの操作

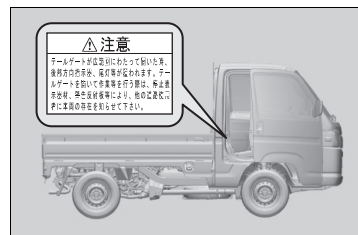
⚠ 注意

ゲートを倒したまま走行しない。

ゲートがバタついたり、尾灯や制動灯が後方から確認できず思わぬ事故につながるおそれがあります。

道路上でテールゲートを開いて作業を行う場合は、停止表示板などを設置する。

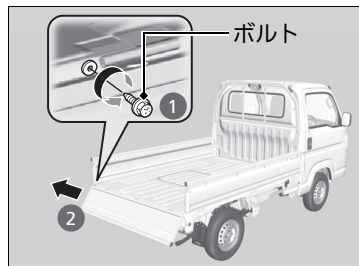
テールゲートを開いたときに、後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯や尾灯などが、後方の車両から確認できないおそれがあります。



エンジンをかけた状態で荷物の積み降ろしをするときは、排気管の後方に立たないようにする。

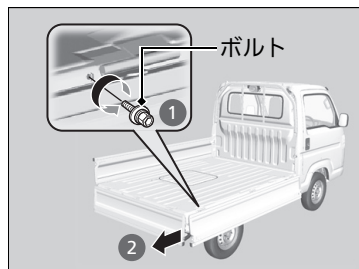
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

取り外しかた



■テールゲート

1. ボルトを外す。
2. レバーを引き、ゲートを静かに倒す。
3. テールゲートをしっかりと持ち、左方向にずらして外す。



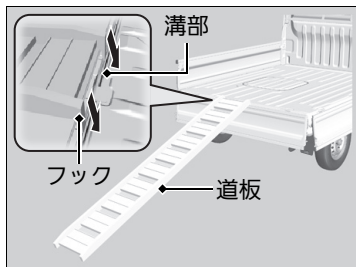
■サイドゲート

テールゲートと同じ要領で、後方にずらして外します。

取り付けるとき

取り付けるときは逆の手順で行い、ボルトを確実に取り付けます。

■ 道板のかけかた



1. テールゲートを倒す。
2. テールゲートの溝部に道板のフックをかける。
▶ 道板が確実にかかっていることを確認してください。

※ 道板のかけかた

⚠ 注意

必ず平坦な場所で周囲の安全に十分注意して行う。また、パーキングブレーキは完全にかける。

坂道などでは道板が外れたり、不意に車が動き出して思わぬ事故につながるおそれがあります。

道板をかけたまま走行しない。

道板が外れたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

荷物を積むときは

荷物を積むときは、下記の点に注意してください。

- 小さい荷物はカバーをかけ固定する
- 小さくて重量のある荷物は、できるだけ運転室側に近づけて積む
- 荷物はしっかりとロープをかける
 - ▶ ロープがゆるむと急ブレーキ、急カーブおよびバウンドしたとき荷物が飛び出して思わぬ危険物となることがあります。
- 荷物を積むときは過積載しない
 - ▶ 車両重量が極端に増すと制動距離その他の運転感覚が狂います。
- 荷台に人を乗せたまま走行しない
 - ▶ 思わぬ事故のもとになります。

ウィンドーの開閉

パワーウィンドー*の開閉

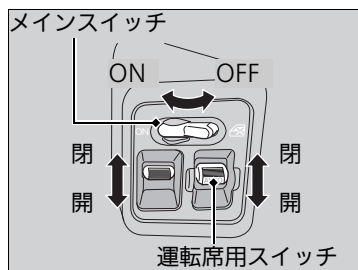
エンジンスイッチが **II** のときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。

開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。

助手席のウィンドーの開閉は、運転席のメインスイッチを ON にしてから行います。

メインスイッチを OFF にしておくと、助手席のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、メインスイッチを OFF にしておいてください。

■自動開閉機能付きのウィンドーの開閉



■手動開閉

開けるとき：スイッチを軽く下げる

閉めるとき：スイッチを軽く上げる

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■自動開閉

開けるとき：スイッチを強く下げる

閉めるとき：スイッチを強く上げる

自動的に全開 / 全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

ⓧパワーウィンドー*の開閉

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。

手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

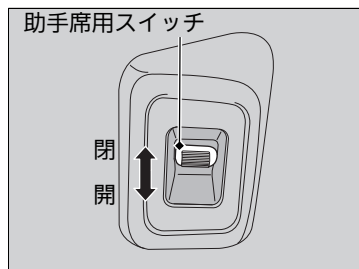
⚠注意

指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

お子さまだけを車内に残さない。必ずエンジンスイッチからキーを抜きドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

自動開閉機能付きのパワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

自動開閉機能なしのウィンドーの開閉



開けるとき：スイッチを下げる
 閉めるとき：スイッチを上げる
 希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

▶▶ パワーウィンドー*の開閉

故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。

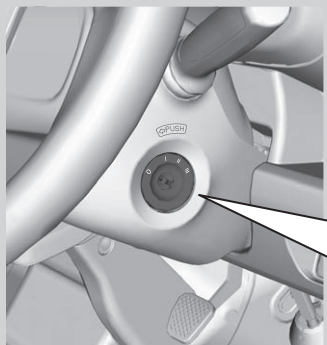
路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

マニュアルウィンドー*の開閉



開閉はそれぞれのドアにあるハンドルを回して行います。

エンジンスイッチ



- 0 ロック**
キーを抜き差しする位置
- I アクセサリー**
エンジンをかけずに、オーディオシステムなどのアクセサリーを使用するときの位置
- II ON**
運転するときの位置
- III 始動**
エンジン始動位置
始動したら手を離すと、自動的に **II** に戻ります。

エンジンスイッチ

⚠ 警告

走行中はエンジンを止めないでください。
マニュアル車はエンジンスイッチを **0** にするとキーが抜けることがあり、ハンドルがロックされ、思わぬ事故につながります。

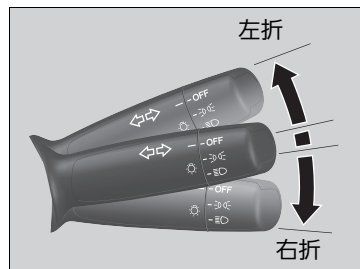
エンジンスイッチが **0** または **I** のときにキーを差し込んだまま運転席ドアを開けると、キー抜き忘れ警告ブザーが鳴ります。キーを抜いてください。ブザー音が止まります。

エンジンスイッチが **0** から **I** に回らないときは、ハンドルロックを解除します。
ハンドルを左右に回しながらキーを回してください。ハンドルロックが解除され、キーが回ります。

オートマチック車

セレクタレバーを **P** に入れないとキーを抜くことができません。

方向指示器(ウィンカースイッチ)



エンジンスイッチが **II** のときに使用できます。

ライトスイッチ



スイッチを回すとエンジンスイッチの位置に関係なく、点灯 / 消灯します。

■ハイビーム

「カチッ」と音がするまでレバーを前方に押します。

■ロービーム

ハイビームのときは、レバーを手前に引きます。

■追越合図(パッシング)

レバーを手前に引き、離します。

※ライトスイッチ

ライトを点灯したままキーを抜くと、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

■表示灯 P.40

エンジンが停止しているときにライト類を点灯したままにしていると、バッテリーあがりの原因となります。

ワイパー / ウォッシャー

エンジンスイッチが **II** のときに使用できます。



■MIST

レバーを押し上げている間、作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ワイパースイッチ(OFF、INT、LO、HI)
エンジンスイッチが **II** のときに使用できます。

■ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを1秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

※ワイパー / ウォッシャー

⚠ 注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。

ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。

ポンプ故障の原因となります。

ワイパーを乾拭きさせないでください。

ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。

ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

寒冷地用ワイパーブレードを装着する際は、Honda 販売店にご相談ください。

寒冷時以外は通常のワイパーブレードに戻してください。

荷台作業灯スイッチ*



エンジンスイッチが **I** または **II** のとき、スイッチを押すと荷台作業灯が点灯します。同時にスイッチ内の表示灯が点灯します。もう一度押すと消灯します。

※：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

❖ワイパー/ウォッシャー

ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。

ワイパースイッチを OFF、エンジンスイッチを **I** または **0** にしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。

ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、ブレーカーが作動し一時的にワイパーが停止することがあります。

数分経過すると、ブレーカーが復帰し、通常通り使用できるようになります。

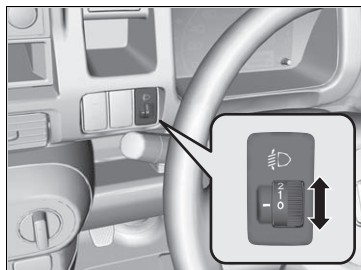
❖荷台作業灯スイッチ*

走行中は必ず消灯してください。

長時間の使用はさけてください。

新しいバッテリーでも約5時間以上使うとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。また容量の大きい電球は使用しないでください。

ヘッドライトレベリングダイヤル



エンジンスイッチが **II** のとき、ヘッドライトの照らす方向(光軸)を下向きに調節することができます。

ダイヤルの数字が大きいほど光軸は下向きになります。

■ダイヤル位置の目安

乗員の人数や荷物の量に応じて、下表を目安にダイヤル位置を選択してください。

乗員や荷物の積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時	0
運転席のみ乗車で荷台満載時	3

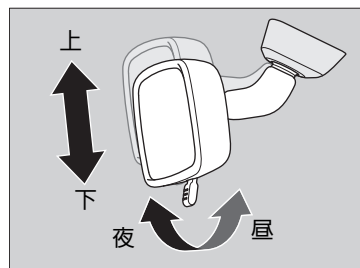
※ヘッドライトレベリングダイヤル

ダイヤル位置 1 と 2 は、乗員の人数や荷物の量に応じて調節してください。

車検などで光軸調節をするときは、ダイヤルを 0 の位置に戻してから行ってください。

ルームミラー

ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。



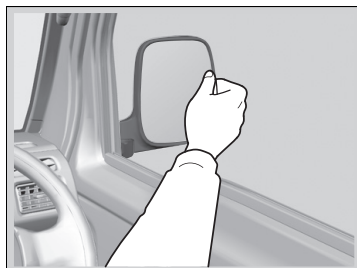
■防眩ルームミラー*

ルームミラーは夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を弱くするための切り換えができます。

※ミラー類の調節

ミラー類の調節は、走行前に行ってください。

ドアミラー



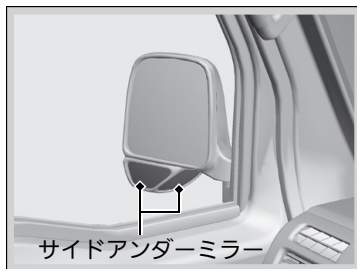
■角度調節

ミラー全体を動かして直接調節します。

■格納

ミラーを車両後方に折りたたみます。走行するときは必ず元に戻してください。

サイドアンダーミラー



助手席側ドアミラーの下部にあります。
停車時や発進前などに車両左側面を確認するときに役立ちます。

※サイドアンダーミラー

サイドアンダーミラーは、車両左側を見るために下向きになっています。

車両後方の確認は直接するか、ルームミラーやドアミラーで十分に行ってください。

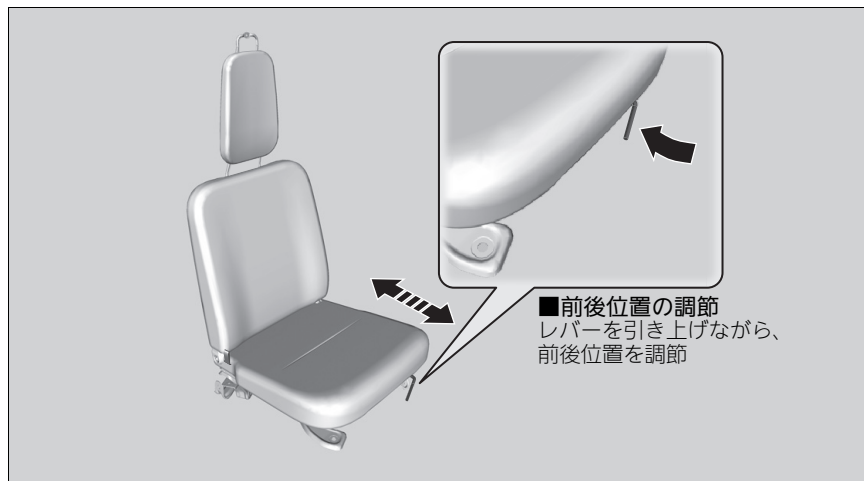
助手席側ドアミラーの下部に固定されているため、サイドアンダーミラーのみの角度調節はできません。

シート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。

正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくブレーキペダル(マニュアル車はクラッチペダル)を十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■シートの動かし方



※シート

⚠ 注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

シートの下に物を置かない。

物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

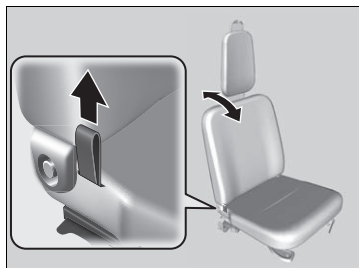
運転席の調節



運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。

シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。

背もたれの動かし方



ストラップを引きながら背もたれを動かす。

シート

警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。

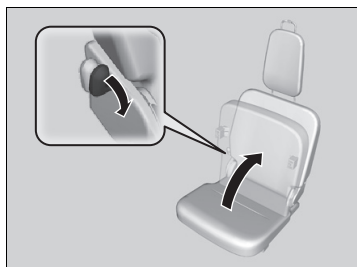
ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

注意

背もたれと背中間にクッションなどを入れない。

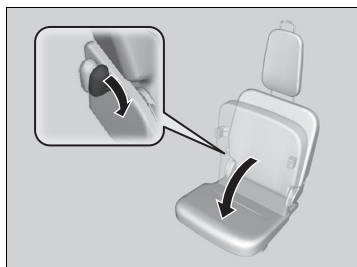
正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

助手席のシートクッションをはね上げて固定する



■シートクッションのはね上げかた
レバーを引いて、シートクッションを引き起こす。

▶直立するまで引き起こすと、固定されます。



■戻しかた

レバーを引いて、シートクッションを前方へ倒す。

シート

⚠ 注意

シートクッションをはね上げた状態で、人や荷物などを乗せたまま走行しない。
ブレーキをかけたときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあります。

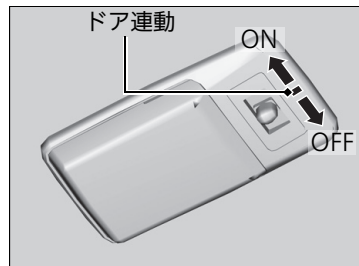
シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

シートクッションをはね上げたときは、ゆずって確実に固定されていることを確認してください。

シートクッションを元に戻すときは、前に倒れ込むので手を添えて操作してください。

室内灯

室内灯スイッチ



■ON

ドアの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動

以下のときに室内灯が点灯。

- 運転席ドアを開けたとき

■キーレスエントリー装備車

以下のときにも室内灯が点灯。

- 助手席ドアを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- エンジンスイッチからキーを抜いたとき

■OFF

ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

※室内灯

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、運転席ドアを閉めると消灯します。

■キーレスエントリー装備車

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約 30 秒後に消灯します。

以下の場合も 30 秒後に消灯します。

- 運転席ドアを解錠してドアを開けなかったとき
- キーを抜いてドアを開けなかったとき

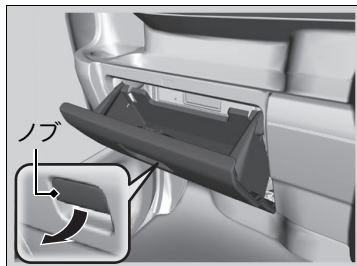
また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。

- 運転席ドアを施錠したとき
- エンジンスイッチにキーが差し込まれた状態でドアを閉めたとき
- エンジンスイッチを **II** にしたとき

キーが差し込まれていない状態のときにいずれかのドアを開けたままにすると、約 15 分後に消灯します。

室内装備品

■グローブボックス



ノブを引くと開きます。

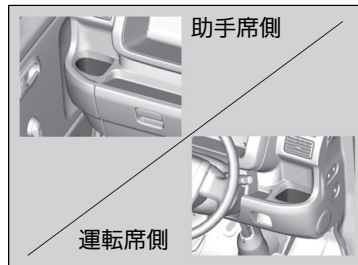
※グローブボックス



走行中は必ずグローブボックスを閉める。

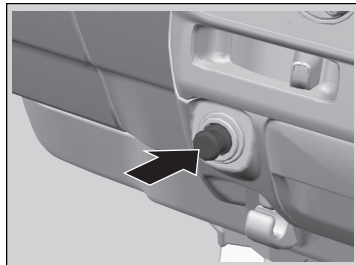
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■ドリンクホルダー



飲み物などを置くときに使います。

■シガレットライター*



エンジンスイッチが **I** または **II** のときに使えます。

ライターを押し込んで手を離し、元の位置に戻るまで待ちます。

▶ ヒーター部が赤熱すると自動的に戻ります。

※ドリンクホルダー

⚠ 注意

飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。

スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

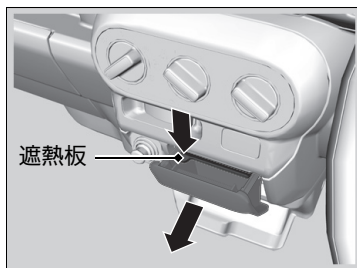
※シガレットライター*

⚠ 注意

シガレットライターの金属部分に触れない。

やけどをするおそれがあります。

灰皿



引き出して使います。
清掃するときは遮熱板を下に抑えながら外します。

灰皿

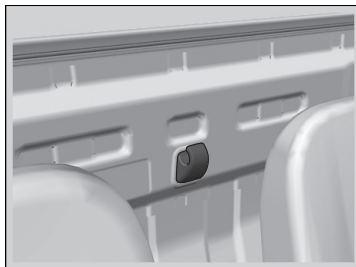
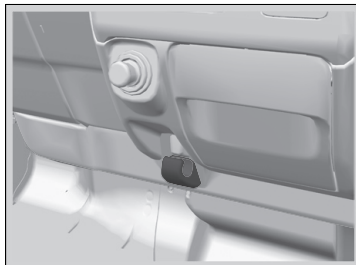
⚠ 注意

**タバコ、マッチなどは確実に火を消して、
灰皿は必ず閉める。**

吸がらをためすぎたり、紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

タバコの火が燃え広がるおそれがあります。

■ コンビニフック



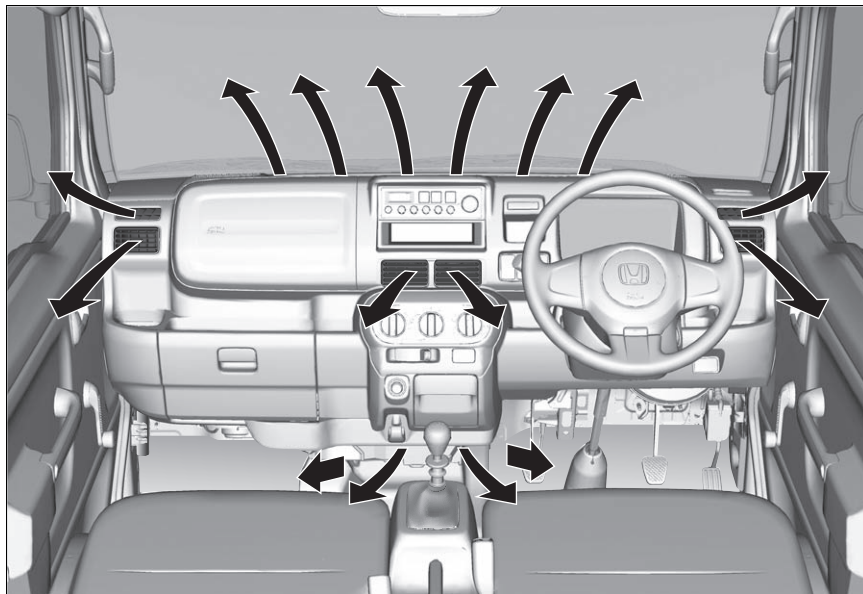
軽い荷物をかけておくのに便利です。

※ コンビニフック

アドバイス

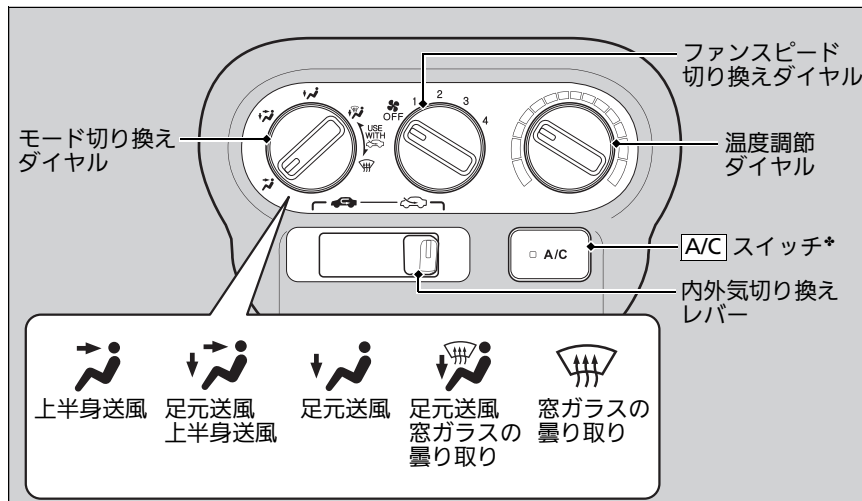
コンビニフックが破損するおそれがありますので、重いもの(約 3kg 以上)や大きなものをかけないでください。

吹き出し口



❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ヒーター・マニュアルエアコン* の使いかた



エンジンを始動してから使用します。

1. ファンスピード切り換えダイヤルで風量を調節する。
2. モード切り換えダイヤルで吹き出し口を選ぶ。
3. 温度調節ダイヤルで吹き出し風の温度を調節する。

エアコン装備車

4. 冷房や除湿暖房をするときは、**A/C** を押す。

共通操作

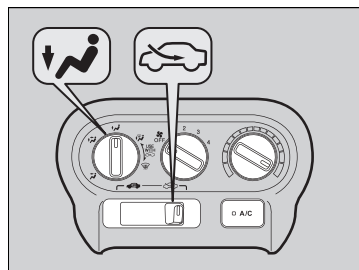
5. 停止するときは、ファンスピード切り換えダイヤルを **OFF** にする。

■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせて、内外気切り換えレバーを操作して内気 / 外気を切り換えます。

- 内気 ：トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気 ：換気を行う場合

■暖房のしかた



暖房はエンジンの熱を利用して、車内の空気を暖めます。

1. ファンスピード切り換えダイヤルで、希望の風量に調節する。
2. モード切り換えダイヤルを  にする。
3. 温度調節ダイヤルで希望の温度に調節する。
4.  に切り換える。

■急速に車内を暖めたいとき

1. ファンスピード切り換えダイヤルを最強（**4**）にする。
2. モード切り換えダイヤルを  にする。
3. 温度調節ダイヤルを最大温風にする。
4.  に切り換える。

■暖房のしかた

急速暖房で車内が暖まったら、ただちに外気導入に切り換えてください。

内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

エアコン装備車

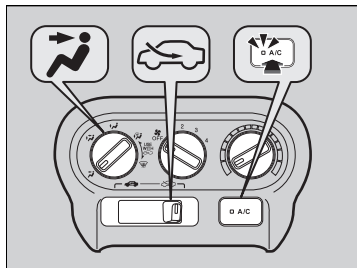
■曇り止め暖房をしたいとき

エアコンをONにすると除湿暖房ができます。外気が除湿され、乾燥した空気で車内を暖めるので、曇り止めに役立ちます。

1. ファンスピード切り換えダイヤルで、希望の風量に調節する。
2. モード切り換えダイヤルをにする。
3. 温度調節ダイヤルで希望の温度に調節する。
4. を押す。(表示灯点灯)
5. に切り換える。

エアコン装備車

■冷房のしかた



1. ファンスピード切り換えダイヤルで、希望の風量に調節する。
2. モード切り換えダイヤルをにする。
3. 温度調節ダイヤルで希望の温度に調節する。
4. を押す。(表示灯点灯)
5. に切り換える。

■急速に車内を冷やしたいとき

1. ファンスピード切り換えダイヤルを最強()にする。
2. モード切り換えダイヤルをにする。
3. 温度調節ダイヤルを最大冷風にする。
4. を押す。(表示灯点灯)
5. に切り換える。

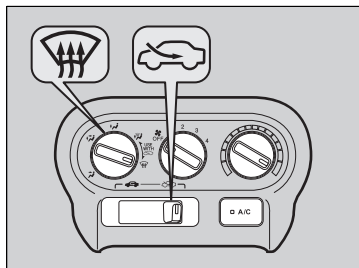
■冷房のしかた

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

急速冷房で車内が冷えたら、ただちに外気導入に切り換えてください。

内気循環で使い続けると車内の空気が汚れます。

■ 前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた



1. ファンスピード切り換えダイヤルを回し、希望の風量に調節する。
2. モード切り換えダイヤルを にする。
3. 温度調節ダイヤルで希望の温度に調節する。
4. に切り換える。

■ 急速に霜を取りたいとき

1. ファンスピード切り換えダイヤルを最強()にする。
2. モード切り換えダイヤルを にする。
3. 温度調節ダイヤルを最大温風にする。
4. に切り換える。

■ エアコン装備車

■ 湿度の高いとき

1. ファンスピード切り換えダイヤルで、希望の風量に調節する。
2. モード切り換えダイヤルを にする。
3. 温度調節ダイヤルで希望の温度に調節する。
4. を押す。(表示灯点灯)
5. に切り換える。

▶▶ 前面・側面ガラスの曇り止め(デフロスター)の使いかた

霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。

内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

■ エアコン装備車

エアコンをONをしているときは、設定温度を最大冷房付近にしないでください。

冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

が示すように内外気切り換えレバーを外気導入にすると効率よく曇りが取れます。

オーディオ

この章では、ラジオや CD プレーヤーなどの操作方法について記載しています。



オーディオ装置*	
取り扱いについて	80
アンテナ	81
AM/FM ラジオ*	
各部の名称	82
基本操作	83
ラジオの使いかた	84
AM/FM チューナー付 CD プレーヤー*	
各部の名称	86
基本操作	88
ラジオの使いかた	90
CD プレーヤーの使いかた	92

取り扱いについて

- 運転中の音量は車外の音が聞こえる程度の音量でお使いください。車外の音が聞こえない状態では安全の妨げとなります。
- 運転中のオーディオ操作は、安全に支障がないようにしてください。
- 車内や車の近くで携帯電話や無線機を使うと、オーディオに雑音が入ることがあります。

■ラジオの受信状態について

ラジオの受信は、車の走行にともない受信状態が刻々と変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

■ディスクについて*



ディスクの取り扱いにあたっては、以下の点にご注意ください。

- 左記マークのついているディスクを使用してください。
- ディスクは円形のものを使用してください。
- ディスクの信号面(記録面)を、直接手で触れないでください。
- 直射日光の当たるところを避けて保管してください。

※ディスクについて*

CD-R/CD-RWをご使用の場合、以下の点にご注意ください。

- CD-R/CD-RWは、録音に使用したレコーダーやディスクの状態により、再生できない場合があります。
- ビデオCDやDVDのディスクには対応していないため、再生できません。

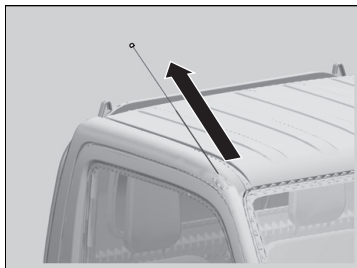
寒いときや雨天のときにプレーヤーの内部が結露して、正しく作動しないことがあります。

その場合、ディスクを取り出し、換気または除湿してからお使いください。

悪路走行などで激しく振動した場合、音とびすることがあります。

アンテナ

■ マニュアルアンテナ



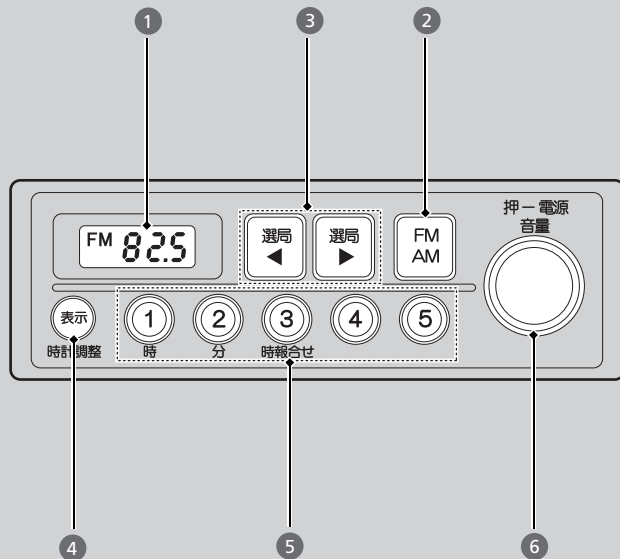
ラジオを受信するときは、アンテナをいっぱいまで伸ばしてください。

※ アンテナ

アンテナの破損を防ぐために、次のような場合は、アンテナを格納してください。

- 駐車場の天井などにアンテナが当たるとき
- ボディーカバーをかけるとき
- 自動洗車機を使用するとき

各部の名称



① 画面

選択中のラジオ局の情報と、時計が表示される画面です。

② FM/AM スイッチ

AM、FM 放送を切り換えるときに押します。

③ ◀/▶ スイッチ

ラジオ局を探すときに押します。

④ 表示 スイッチ

画面の表示を切り換えるときに押します。

⑤ ワンタッチ選局スイッチ ① ~ ⑤

ラジオ局をあらかじめ設定しておき、ワンタッチで選局するためのスイッチです。

⑥ 電源 / 音量ダイヤル

電源：オーディオ装置の電源を入れるときに押します。

音量：音量を調節するときに回します。

基本操作

オーディオ装置はエンジンスイッチが **I** または **II** のときに使用できます。



■オーディオ装置の ON/OFF

電源 / 音量ダイヤルを押すと電源が ON になり、もう一度押すと OFF になります。

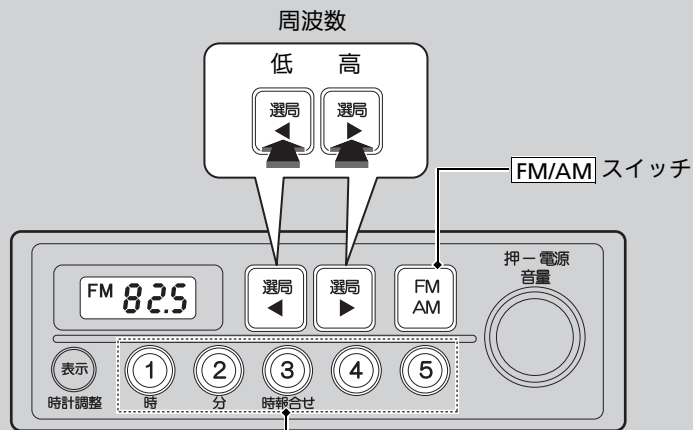
■音量の調節

電源 / 音量ダイヤルを回して、音量を調節します。

▶▶基本操作

FM/AM を押しても電源が ON になります。

ラジオの使いかた



ワンタッチ選局スイッチ 1～5

1. **FM/AM** を押してバンドを選ぶ。
▶ スイッチを押して、FM/AM を選びます。

2. 選局する。

■ワンタッチ選局

あらかじめ登録してある放送局を受信するときは、**1**～**5**を押します。

▶放送局の登録 P.85

■手動選局

◀/▶を押すと、受信周波数が少しずつ変化します。

■自動選局

◀/▶を「ピッ」と鳴るまで押すと自動的に電波を探し、放送を受信すると止まります。

▶ラジオの使いかた

受信電波が弱いと、自動選局では選局できないことがあります。

このようなときは、◀/▶の手動選局で選局してください。

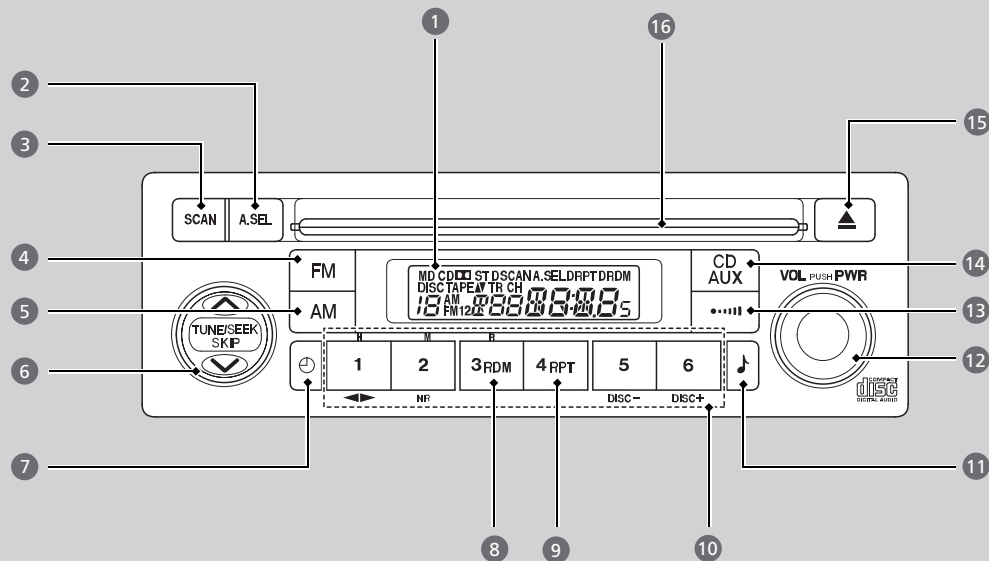
放送局の登録

AM5 局、FM5 局を登録できます。

■手動で放送局を登録する(プリセット)

1. **FM/AM** を押してバンドを選ぶ。
2.   で選局する。
3. 登録したいワンタッチ選局スイッチを選び、数秒間押す。
▶ 放送局が登録されると、「ピッ」と音がします。
4. 続けて登録する場合は、**2**、**3** の操作を繰り返す。

各部の名称



① 画面

選択中のラジオ局、再生中の CD などの情報と、時計が表示される画面です。

② [A.SEL] スイッチ

放送局の違う地域へ出かけたときや、セットした放送局が聞けなくなったときに押します。

③ [SCAN] スイッチ

ラジオ局を探すときや、CD の聞きたい曲を探すときに押します。

④ [FM] スイッチ

FM 放送を聞くとときに押します。

⑤ [AM] スイッチ

AM 放送を聞くとときに押します。

⑥ [TUNE/SEEK/SKIP] スイッチ

ラジオ局を探したり、CD の曲を選ぶときなどに押します。

⑦ スイッチ

時計表示を ON/OFF するときに押します。

⑧ [3 RDM] スイッチ

CD の曲をランダムに聞くとときに押します。

⑨ [4 RPT] スイッチ

CD の曲を繰り返し聞くとときに押します。

⑩ ワンタッチ選局スイッチ [1] ～ [6]

ラジオ局をあらかじめ設定しておき、ワンタッチで選局するためのスイッチです。

⑪ スイッチ

音質、バランス調整をするときに押します。

⑫ 電源 / 音量ダイヤル

電源：オーディオ装置の電源を入れるときに押します。

音量：音量を調整するときに回します。

⑬ スイッチ

交通情報を聞くとときに押します。

⑭ [CD/AUX] スイッチ

CD を聞くとときに押します。

⑮ スイッチ

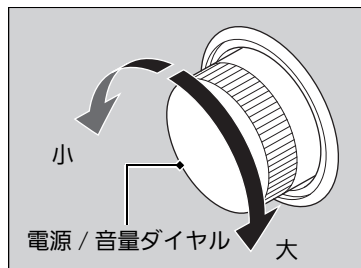
CD を取り出すときに押します。

⑯ CD 挿入口

CD のレーベル面を上にして挿入します。

基本操作

オーディオ装置はエンジンスイッチが **I** または **II** のときに使用できます。



■オーディオ装置の ON/OFF

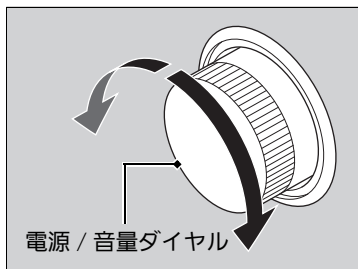
電源 / 音量ダイヤルを押すと電源が ON になり、もう一度押すと OFF になります。

■音量の調節

電源 / 音量ダイヤルを回して、音量を調節します。

▶▶基本操作

FM、**AM**、**CD/AUX** を押しても電源が ON になります。



■音質・バランスの調節

🎵を押します。

押すたびに、設定項目が下記のように切り換わります。

設定項目を選び、電源 / 音量ダイヤルを回して調節します。

低音音質(BAS)

-- BAS

高音音質(TRE)

-- TRE

前後バランス(FAD)

-- FAD

左右バランス(BAL)

-- BAL

▶▶基本操作

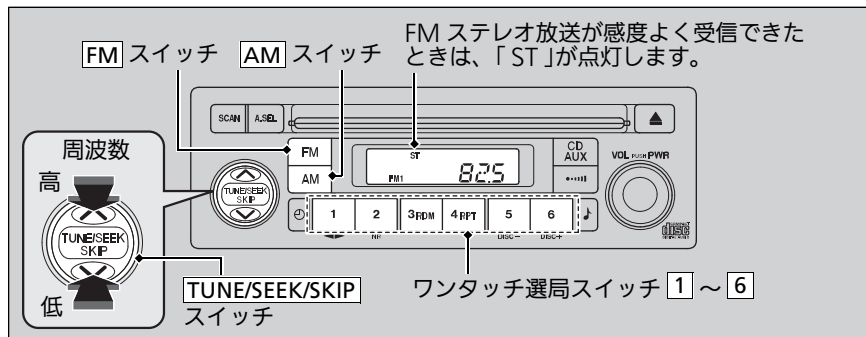
音質またはバランスレベルが中央のとき、画面に「--」を表示します。

調節後、数秒が経過すると、自動的に音質・バランス調節モードが終了します。

リヤ用スピーカーは装備していません。

スピーカーが装備されていない場合も、前後バランスの設定画面は表示されます。

ラジオの使いかた



1. **FM**、**AM** を押してバンドを選ぶ。

▶ スイッチを押して、FM1/FM2/AM を選びます。

2. 選局する。

■ワンタッチ選局

あらかじめ登録してある放送局を受信するときは、**1** ~ **6** を押します。

▶ 放送局の登録 P.91

■手動選局

TUNE/SEEK/SKIP の **▲** または **▼** を押すと、受信周波数が少しずつ変化します。

■自動選局

TUNE/SEEK/SKIP の **▲** または **▼** を押し続けると自動的に電波を探し、放送を受信すると止まります。

▶▶ラジオの使いかた

FM ステレオ放送が感度よく受信できたときは、画面に「ST」と表示されます。

AM 放送はステレオ受信できません。

受信電波が弱いと、自動選局では選局できないことがあります。

このようなときは、**TUNE/SEEK/SKIP** の手動選局で選局してください。

スキャン機能で、現在の受信状況を確認することができます。

聞きたい放送局を探すときに便利な機能です。

▶ 放送局を探して受信する(スキャン) P.91

放送局の登録

AM6 局、FM12 局(FM1、FM2 それぞれ 6 局)を登録できます。

■手動で放送局を登録する(プリセット)

1. **[AM]**、**[FM]** を押してバンドを選ぶ。
2. **[TUNE/SEEK/SKIP]** で選局する。
3. 登録したいワンタッチ選局スイッチを選び、数秒間押す。
▶ 放送局が登録されると、「ピッ」と音がします。
4. 続けて登録する場合は、**2**、**3** の操作を繰り返す。

■自動で放送局を登録する(オートセレクト)

1. **[A.SEL]** を押す。(「A.SEL」が点滅)
▶ 周波数の低い順から、ワンタッチ選局スイッチに FM12 局、AM6 局を自動的に記憶します。(「A.SEL」が点灯)

■オートセレクトの解除

オートセレクトを解除すると、登録した放送局(周波数)はオートセレクトをする前の状態に戻ります。

1. **[A.SEL]** を押す。(「A.SEL」が消灯)

放送局を探して受信する(スキャン)

1. **[SCAN]** を押す。(「SCAN」が点灯)
▶ 受信可能な放送局を周波数の低い順から数秒間ずつ放送します。
2. 聞きたい放送局を受信したら、もう一度 **[SCAN]** を押す。
▶ スキャンが解除されます。他の操作を選択したときも、解除されます。

放送局の登録

電源が切れた場合(車両のバッテリーを外したとき、ヒューズが切れたときなど)、ワンタッチ選局スイッチの記憶が消去されます。再度登録操作を行ってください。

受信できる放送局が AM6 局、FM12 局より少ないとき、残りのスイッチには記憶されません。記憶されていないスイッチを押すと、周波数が「0」と表示されます。

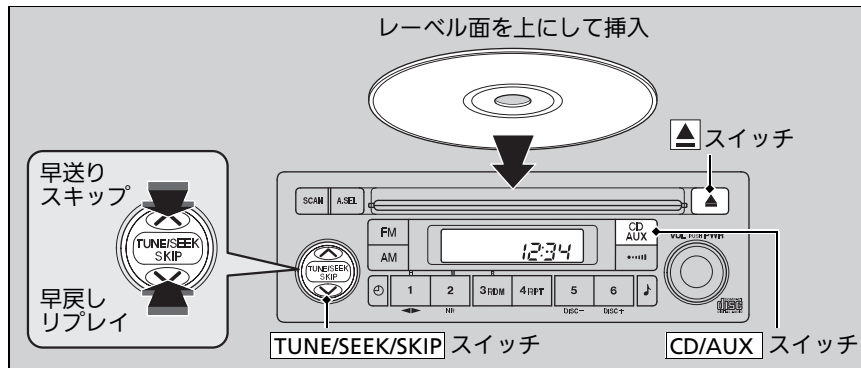
オートセレクトした放送局を、個別に変更することもできます。(プリセット)

交通情報の受信

1.  を押す。
▶ 周波数 (1620kHz/1629kHz) の切り換えは、**TUNE/SEEK/SKIP** で行います。
2. 解除するときは、もう一度  を押す。
▶ 他の操作を選択したときも、解除されます。

CD プレーヤーの使いかた

CD を再生することができます。



CD の再生

1. CDをレーベル面を上にして挿入する。CDがすでに入っているときは、**CD/AUX** を押す。
▶ CD を途中まで入れると、自動的に CD が引き込まれます。

交通情報の受信

 を押して交通情報を受信しているときは、ワンタッチ選局スイッチによる選局はできません。

ワンタッチ選局スイッチを使う前に、 を押して交通情報を解除してください。

CD プレーヤーの使いかた

CD プレーヤーは 12cm CD 専用です。

8cm CD は使用しないでください。

アダプターを付けた 8cm CD も使用しないでください。故障の原因になることがあります。

CD やプレーヤーをゴミやほこりから保護するため、CD が押し出されたまま約 10 秒間経過すると、自動的に内部に引き込まれます。

エンジンスイッチを **0** にした場合でも、 スイッチを押すと CD を取り出すことができます。

■ CD の取り出し

1.  を押す。
2. CD を取り出す。

■ 再生中の操作

■ 早送り / 早戻し

TUNE/SEEK/SKIP の  または  を押し続ける。

■ スキップ / リプレイ

TUNE/SEEK/SKIP の  または  を押す。

▶ リプレイ (再生中や前の曲の頭出し)、スキップ (次の曲の頭出し) になります。

■ 聞きたい曲を探するとき(スキャン)

1. **SCAN** を押す。(「SCAN」が点灯し、トラックナンバーが点滅)
▶ 各トラックの始めを約 10 秒間ずつづつづに再生します。
2. 聞きたい曲のところで、もう一度 **SCAN** を押す。
▶ スキャン再生が解除されます。

■ 再生中の曲を繰り返し聞くととき(リピート)

1. **4 RPT** を押す。(「RPT」が点灯)
2. 解除するときは、もう一度 **4 RPT** を押す。

※聞きたい曲を探するとき(スキャン)

すべての曲のスキャン再生が終わると、スキャンを開始した曲から通常の再生になります。

■曲順をランダムに再生するとき

1. **[3 RDM]** を押す。(「RDM」が点灯)
2. 解除するときは、もう一度 **[3 RDM]** を押す。

■ CD プレーヤーのエラーメッセージ

画面にエラーメッセージが点滅した場合は、下表にしたがって点検してください。

画面	原因	対処のしかた
	ディスクの読み込みができない(露つき、傷、汚れ、ディスクが裏返し、対応していないファイル形式で記録されているなど)	• 汚れを拭き取ってください。 • ディスクを確認してください。 • ディスクのレーベル面を上にして挿入してください。
	ディスクの取り出しができない等、機械的な不具合	Honda 販売店で点検を受けてください。
	プレーヤー内部の温度上昇による一時停止状態	ディスクを取り出し、内部の温度が下がるまでお待ちください。

運転

この章では、運転操作、給油などについて記載しています。

運転の前に	96
運転操作	
エンジンの始動	98
走行時の注意点	101
オートマチックについて	103
シフト操作	104、106
後輪差動制限装置 (リヤデフロック)*	107
4WD(四輪駆動機構)*	109
ブレーキ操作	110
ABS(アンチロックブレーキシステム)	112
駐停車操作	113

給油	
指定燃料について	115
給油のしかた	116

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
 - ▶ 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
 - ▶ 屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
 - ▶ 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
 - ▶ 走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
 - ▶ 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
❏ **タイヤの点検と整備** P.137
- 車の周囲に子供はいないか？
車の周りに障害物はないか？
 - ▶ 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
 - ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。

❏ 車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。

無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。

凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。

車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

経済走行のために、荷台に積もった雪は走行前に取り除いてください。

車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
 - ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。
- シートの足元にものを置いていないか？
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
 - ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シート位置などが適切に調節されているか？
 - ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
 - ❏ シートの調節 P.65
- ルームミラー、ドアミラーは適切に調節したか？
 - ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
 - ❏ ミラー類の調節 P.63
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
 - ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
 - ❏ シートベルトの着用 P.22
- ドアが確実に閉まっているか？
 - ▶ 走行前にすべてのドアが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
 - ❏ 車内での施錠 / 解錠 P.51
- エンジンを開始したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
 - ❏ 警告灯 P.37

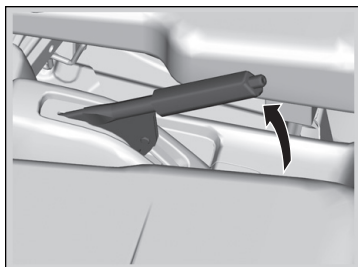
車外での確認項目

運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。

運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

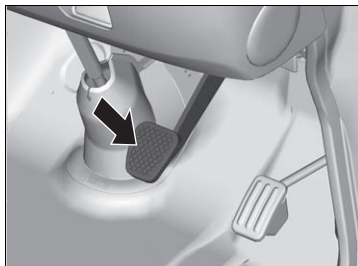
車に合ったフロアマットをお使いください。

エンジンの始動



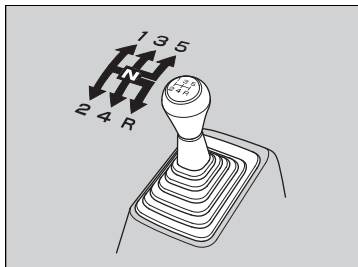
共通操作

1. パーキングブレーキをかける。



オートマチック車

2. セレクトレバーが **P** であることを確認し、右足でブレーキペダルを踏む。
▶ **N** でも始動できますが、安全のため駆動輪が固定される **P** で行ってください。



マニュアル車

2. チェンジレバーが **N** (ニュートラル) であることを確認し、右足でブレーキペダル、左足でクラッチペダルを踏む。
▶ 思わぬ事故を防ぐため、クラッチペダルをいっばいに踏み込まないとスターターが回らないようになっています。

※エンジンの始動

⚠ 警告

バッテリー液が不足しているときは、エンジンを始動しない。

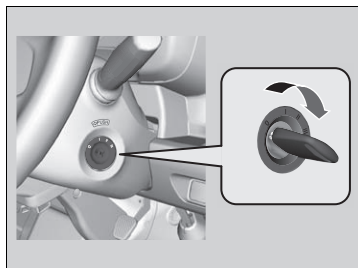
バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠ 注意

エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのエンジンの始動は、すべての電気アクセサリを OFF にしてから行います。

寒いときのエンジンの始動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコンなどの電気アクセサリをすべて OFF にしてから行ってください。



共通操作

3. アクセルペダルを踏まずに、エンジンスイッチを **III** に回す。
▶ エンジンが始動したら、エンジンスイッチを離します。

❖ エンジンの始動

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。

Honda 販売店で点検を受けてください。

エンジンスイッチを 10 秒以上 **III** にしないでください。

エンジンが始動したらすぐに、手を離してください。自動的に **II** に戻ります。

エンジンが始動しない場合は、30 秒以上待ってから操作してください。

エンジンが始動しない、始動してもすぐに止まる場合は、30 秒以上待ってからアクセルペダルを軽く踏みながら**手順3**を繰り返してください。エンジンが始動したらアクセルペダルを離します。

オートマチック車

発進時の操作

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを **[D]** にする。
▶ 後退する場合は **[R]** にします。
2. パーキングブレーキを解除する。
▶ ブレーキ警告灯が消灯したことを確認してください。
■ パーキングブレーキ P.110
3. ブレーキペダルを徐々に離し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで発進する。

発進時の操作



注意

アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しない。

急発進して思わぬ事故の原因となります。

坂道での発進時は、必ずパーキングブレーキを併用してください。

車が後退しないよう、パーキングブレーキをかけたまま、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

走行時の注意点

霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。

トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

※走行時の注意点

走行中はエンジンを停止しないでください。

下記のような状態になり危険です。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

車を移動するときは、必ずエンジンを始動してください。

下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

オートマチック車

走行中はセレクトレバーを **[N] にしないでください。**

エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

オートマチック車

高速走行中にセレクトレバーを **[2] にしないでください。**

急激なエンジンブレーキがかかり、エンジンが過回転になり故障することがあります。

■雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。

わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

■その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

※走行時の注意点



注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。

滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。

システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護のはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

※雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。

ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

オートマチックについて

■ クリープ現象

エンジンが始動しているとき、セレクトレバーが **P** **N** 以外に入っていると動力がつながった状態になり、クリープ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

■ キックダウン

セレクトレバーが **D** で走行中にアクセルペダルをいっぱい踏み込むと、自動的に変速比が変わりエンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。

❖ クリープ現象

エンジン回転が上がるとクリープ現象が強くなります。

エンジン回転が上がったときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。

ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

❖ キックダウン

上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより急にエンジン回転が上がり、速度が出すぎてしまうことがあります。

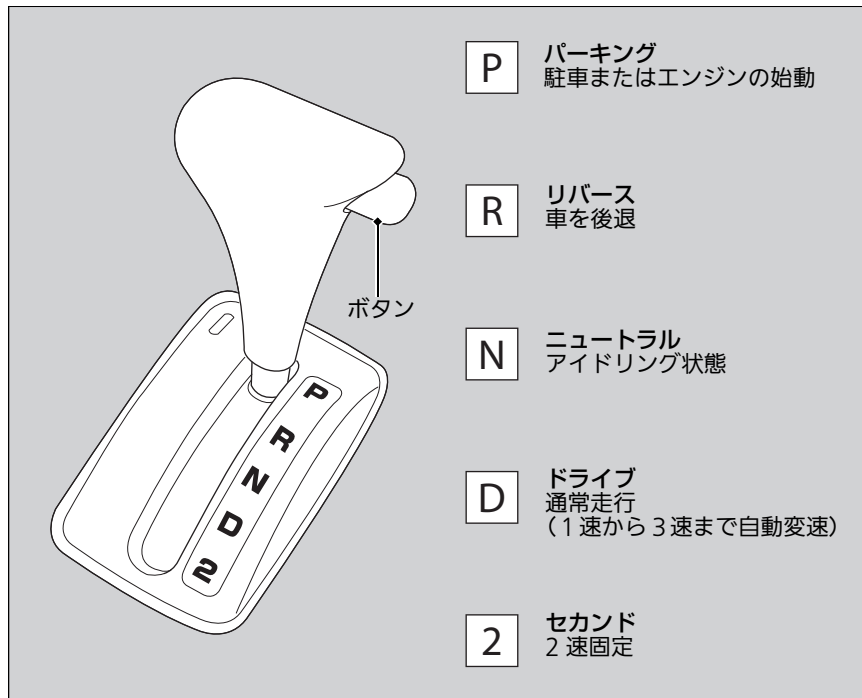
アクセルペダルは慎重に操作してください。滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

オートマチック車

シフト操作

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■セレクトポジションの名称とはたらき



※シフト操作

セレクトレバーが **P** 以外のときは、エンジンスイッチが **0** まで回らないため、キーを抜くことはできません。

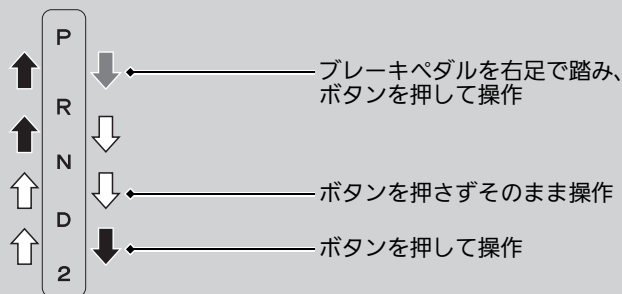
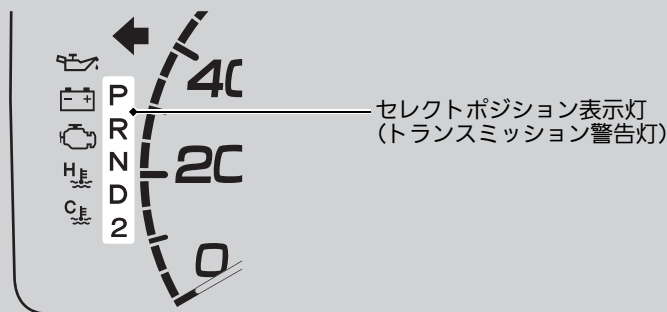
R のポジションのときは、ブザーが鳴り運転者にセレクトレバーが **R** に入っていることを知らせます。

N のポジションのときでも、エンジンが冷えているときはトランスミッションフルードの粘性により、車がわずかに動き出すことがあります。

ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

■ セレクトレバーの操作

セレクトポジションは、メーター部にあるセレクトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示灯の点灯で表示します。
エンジンスイッチを **II** にすると、**[D]** が数秒点灯します。



■ セレクトレバーの操作

アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。

車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

エンジンの回転をあやまって限界回転数以上で運転した場合、エンジン保護装置により燃料供給が停止されます。

そのとき、軽い衝撃を感じる場合がありますが、異常ではありません。

セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、セレクトレバーの操作ができないことがあります。

先にブレーキペダルを踏んでください。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにセレクトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

走行中にセレクトレバーをどのポジションにしても **[D]** の表示灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。

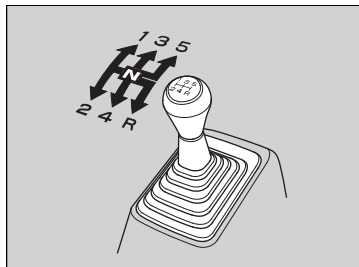
急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。

マニュアル車

シフト操作

■チェンジレバーの操作

変速するときは、クラッチペダルをいっばいに踏み込んで、チェンジレバーを確実に操作します。



※チェンジレバーの操作

アドバイス

車が完全に止まらないうちは **[R]** に入れないでください。

トランスミッション破損の原因となります。

誤操作を防ぐため、一定車速以上では、**[R]** へ直接チェンジレバーを切り換えることはできません。

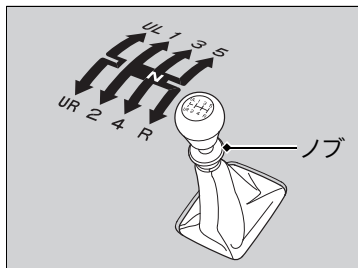
停車しても **[R]** に入らないときは、一度 **[N]** (ニュートラル) へ戻し、**[1]**、**[2]** 側へ倒してから **[R]** にしてください。

エンジンを過回転させないために、下表の各チェンジレバー位置での速度範囲を参考に、シフトダウンしてください。

チェンジレバー の位置	速度範囲	
	5 速車	5 速車 (ATTACK)
UL	—	0 ~ 14km/h
1	0 ~ 22km/h	0 ~ 22km/h
2	10 ~ 45km/h	10 ~ 45km/h
3	20 ~ 65km/h	20 ~ 65km/h
4	30km/h ~	30km/h ~
5	45km/h ~	40km/h ~

エンジンの回転をあやまって限界回転数以上で運転した場合、エンジン保護装置により燃料供給が停止されます。

そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。



ATTACK

UL（超低速前進）、**UR**（超低速後退）への変速は、車が完全に停止した状態でノブを引き上げながら操作します。

UL から **UR** へ入れるときも同様に、車が完全に停止した状態でノブを引き上げながら操作します。

後輪差動制限装置（リヤデフロック）*

積雪路、砂地、ぬかるみなどで車輪が空転して動けなくなったとき、動力を左右後輪に等しく伝達して脱出しやすくする装置です。

チェンジレバーが **UL**（ウルトラロー：超低速前進）または **UR**（ウルトラリバース：超低速後退）の位置でのみデフロックがはたります。

チェンジレバーの操作

UL（ウルトラロー）、**UR**（ウルトラリバース）は、超低速走行を必要とするときにご使用ください。

後輪差動制限装置（リヤデフロック）*

アドバイス

車が完全に止まらないうちはデフロックスイッチを操作しないでください。
トランスミッション破損の原因となります。

デフロックは、ぬかるみ等の緊急脱出時のみ車速 14km/h 以下で使用してください。

切り換え操作は、必ず車輪が完全に停止した状態で行ってください。

車輪が空転したままでデフロックスイッチを操作すると、車体が思わぬ方向へ飛び出すおそれがあります。

通常走行時はデフロックスイッチを必ず OFF にしてください。



■デフロックの切り換え操作

エンジンスイッチがⅡのときに使用できます。

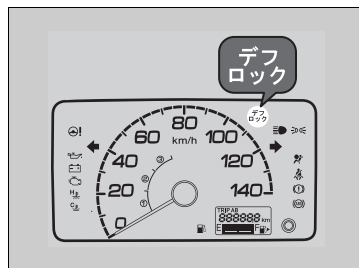
1. チェンジレバーを **UL** または **UR** の位置にする。

2. スイッチを押す。

▶ リヤデフロックがONになり、作動表示灯が点灯します。また、デフロック状態に切り換わるとメーター内のリヤデフロック作動表示灯が点灯します。

3. 解除するときは、もう一度スイッチを押す。

▶ リヤデフロックが OFF になり、作動表示灯は消灯します。また、メーター内のリヤデフロック作動表示灯が消灯します。



※後輪差動制限装置（リヤデフロック）*

舗装路面走行時はデフロックスイッチを操作しないでください。

デフロックがONの状態では、ハンドルが切れにくくなることがあります。

脱出後は、必ずデフロックスイッチを OFF にし、メーター内のリヤデフロック作動表示灯が消灯したことを確認してから、通常走行を行ってください。

デフロックスイッチを操作して切り換わらないときには、ハンドルを少し回し、アクセルペダルを踏むなどして車輪を少し回転させてください。

タイヤは四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄及び摩耗差のないものを使用してください。また、空気圧は四輪とも指定空気圧に調整してください。

後輪左右に異種（異径）タイヤを装着してデフロックスイッチを操作した場合、ハンドルが片方に取りられることがあります。

4WD(四輪駆動機構)*

4WD(四輪駆動機構)は、積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において、2WD 車(二輪駆動車)に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありませんので以下の点に注意してください。

- アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般の車と同じく慎重に行う
- 砂地、ぬかるみなど、後輪が空転しやすい場所での連続走行はしない
- 渡河などの水中走行はしない
- ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がないため、滑りやすい路面では十分に車間距離をとって走行する

❏4WD(四輪駆動機構)*

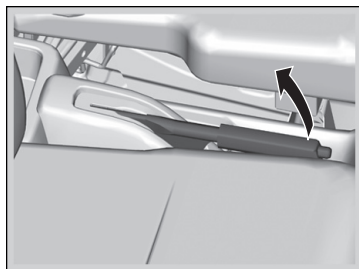
種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、4WDが正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ブレーキシステム

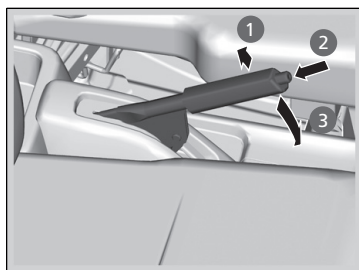
■ パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキレバーにより操作します。



■ パーキングブレーキをかける

ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引きます。



■ パーキングブレーキを解除する

1. レバーを軽く引き上げながら、ボタンを押す。
2. ボタンを押したまま、レバーを下まで完全に下ろす。

※ パーキングブレーキ

アドバイス

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、リヤブレーキと車軸が損傷するおそれがあります。

パーキングブレーキは完全に解除した状態で、走行してください。

パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行すると、「パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザー」が鳴ります。

完全に解除すると、ブザーは止まります。

停車したときも、ブザーは止まります。

駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。

■ フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

ブレーキのロックを防止する ABS(アンチロックブレーキシステム)で、安全性の向上を図っています。

❏ ABS(アンチロックブレーキシステム) P.112

❏ フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。

Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。

アクセルペダルから足を離し、ギヤを低速にシフトすると、エンジンの回転抵抗で速度が落ちます。

オートマチック車は **2** にして、エンジンブレーキを使用してください。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。なお、低速(車速約 10km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

エンジンスイッチを **II** にすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

※ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。

ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためフロントコンパートメントからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかりと踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。

オートマチック車

3. セレクトレバーを **P** に入れる。

マニュアル車

3. チェンジレバーを **R** または **1** に入れる。

共通

4. エンジンを停止する。

▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

※駐停車操作

⚠ 注意

停車中の空ぶかしはしない。

万一、セレクトレバーが **P** **N** 以外に入っていた場合、思わぬ急発進のもとになります。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で **P** **N** 以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。

トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。

排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

仮眠するときは、エンジンを停止してください

- ▶ 無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

ⓧ 駐車する

⚠ 注意

駐車時はエンジンを止める。

万一、セレクトレバーが[P][N]以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちに[P]に入れないでください。

トランスミッション破損の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。

車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。

パーキングブレーキをかけずに、輪留めしてください。

輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

指定燃料について

■指定燃料

無鉛レギュラーガソリン

レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

■タンク容量

37 リットル

※指定燃料について

アドバイス

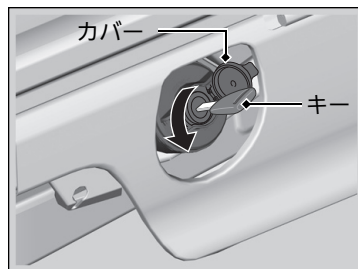
指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。

以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

給油のしかた



1. 運転席側にガソリンスタンドの給油機がくように車を停める。
2. エンジンを停止させる。
3. カバーを開けて、キーを確実に差し込んで回し解錠する。

給油のしかた

⚠ 警告

燃料補給時は火気厳禁。

燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- エンジンは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱い屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

アドバイス

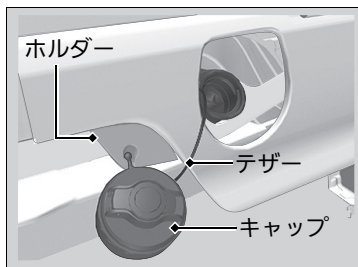
キャップを回すときは、テザーと一緒に回らないことを確認してください。

一緒に回ると、テザーが切れるおそれがありますので、泥や氷などを取り除いて下さい。

キーが回らないときは、キャップを閉める方向に「カチッ」という音が1回以上するまで回すと、キーを回すことができます。



4. キーを抜き取ってからキャップをゆっくり回して開ける。



5. キャップをホルダーにかける。
6. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。

給油のしかた

警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。

静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

注意

キャップはゆっくり開ける。

急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。

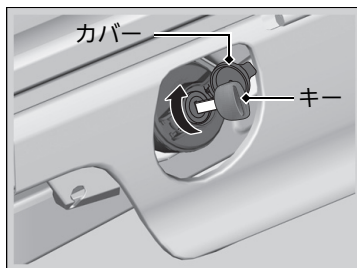
燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

燃料蒸気を吸わないでください。

燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。



7. 給油後、キャップをゆっくり回して「カチッ」という音が3回以上するまで締め付ける。



8. カバーを開けて、キーを確実に差し込んで回し施錠する。
9. キーを抜き取る。

給油のしかた

⚠ 注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。

純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。



メンテナンスの前に	
点検整備について	120
メンテナンスを安全に行うために	121
メンテナンスに関する注意事項	122
ボンネット内とその他のメンテナンス	
ボンネット内とその他の メンテナンス項目	123
ボンネットを開ける	124
推奨エンジンオイル	125
ウィンドウォッシャー液の補給	126
電球の交換	127
ワイパーブレードドラバーの点検と整備 ..	135

タイヤの点検と整備	
タイヤの点検	137
タイヤとホイールの交換	139
タイヤのローテーション	140
冬期のタイヤ	141
キーレスエントリー一体キー*	
キーレスエントリー一体キーの 取り扱いと電池交換	144
清掃	
車内の清掃	146
車外の清掃	148

アクセサリーと改造	
アクセサリー	150
改造や部品交換について	150

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。

普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。

点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

点検整備の種類

■日常点検

長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検

12か月および24か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は、Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。

お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
▶ エンジンを始動するときは必ず十分な換気を行ってください。

車についての安全事項

- エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください。
▶ エンジンの温度が高い状態でエンジンを停止したとき、冷却ファンが自動的に作動することがあります。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
▶ 指示されたとき以外は、エンジンを始動しないでください。

⚠メンテナンスを安全に行うために



警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。

走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。

必ず、この取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。

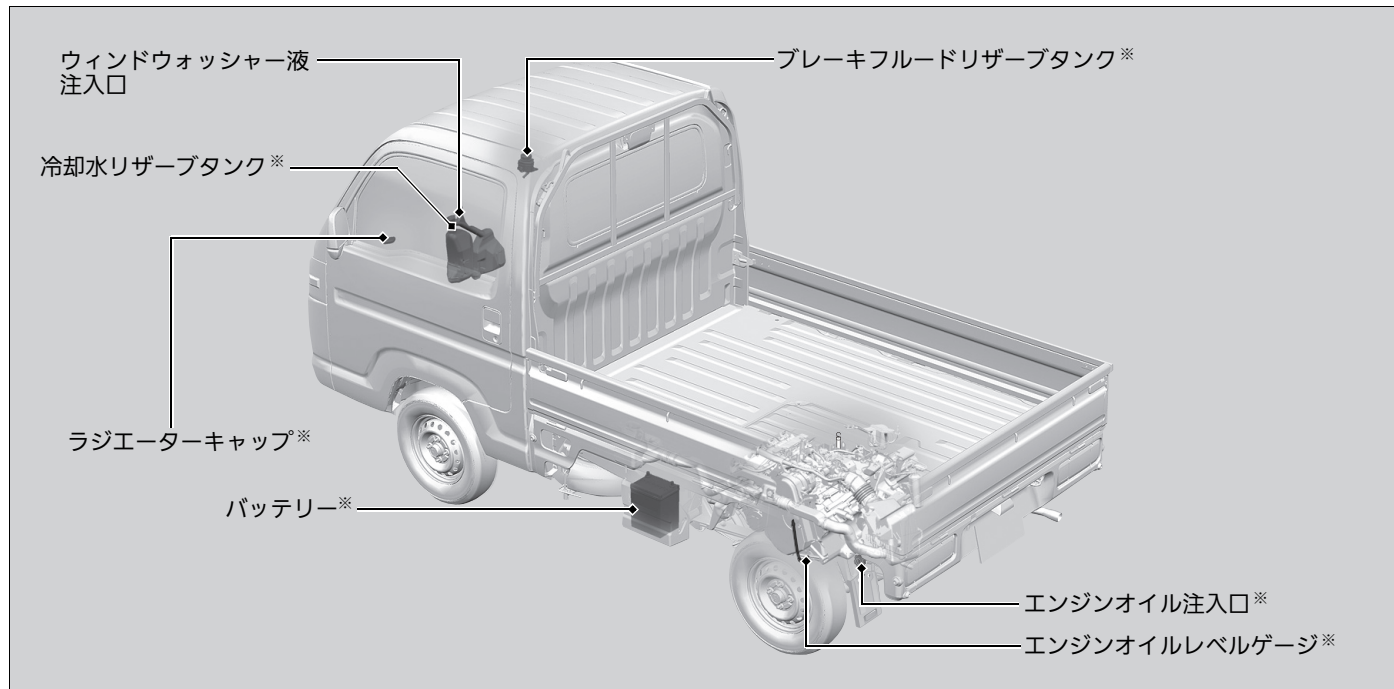
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。必ず、この取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

メンテナンスに関する注意事項

■メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

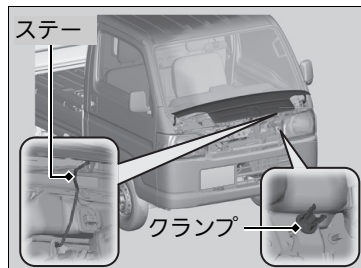
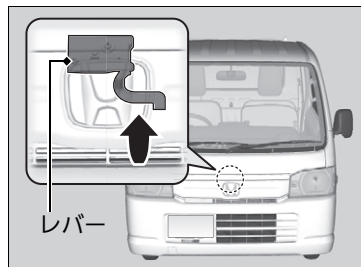
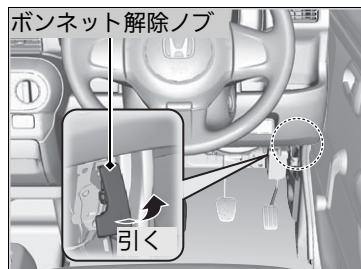
メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

ボンネット内とその他のメンテナンス項目



※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

ボンネットを開ける



1. 車を止め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
▶ ボンネットが少し浮き上がります。

3. ボンネット中央のレバーを上押し上げロック機構を解除し、ボンネットを開ける。

4. ステーをクランプから取り外し、ステアーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステアーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約10cmの高さから手を離します。

▶▶ ボンネットを開ける



注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。

ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

推奨エンジンオイル

推奨エンジンオイル：

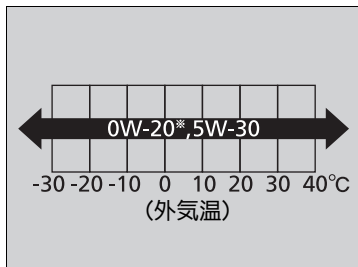
Honda 純正エンジンオイル

▶ Honda 純正エンジンオイル P.178

API SM もしくは SN 級以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル



エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながる場合があります。



市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。

※：最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。Honda 販売店でお求めください。

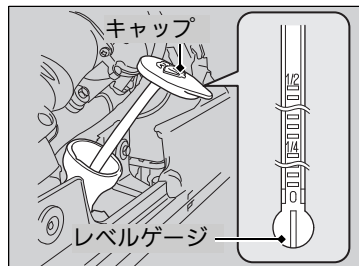
▶▶ 推奨エンジンオイル

冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。

冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量は、キャップに付いているウォッシャー液レベルゲージにより確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

❏ ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。

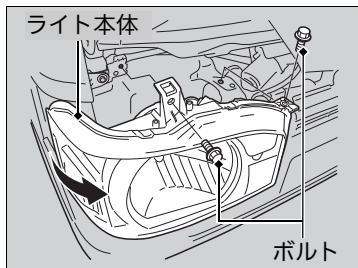
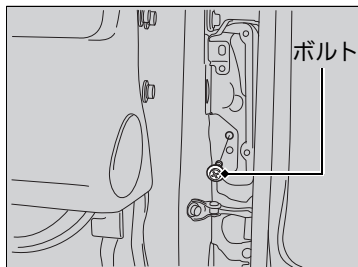
ウォッシャー液は必要に応じて水(軟水)で薄めてください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

ヘッドライト電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

ハイ/ロービームヘッドライト : 12V-60/55W



1. 交換する側のドアを開け、ボルトを外す。

2. ボンネットを開ける。

■ ボンネットを開ける P.124

3. ボルトを外す。

4. ライト本体を手前に引いて取り外す。

▶ 交換する側のドアを閉めて取り外します。

⚡ヘッドライト電球

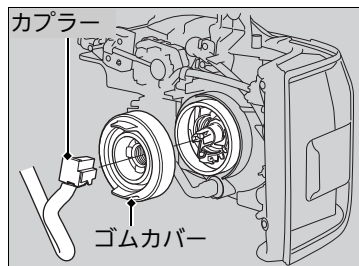
アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱いときは、熱が冷めてから行ってください。

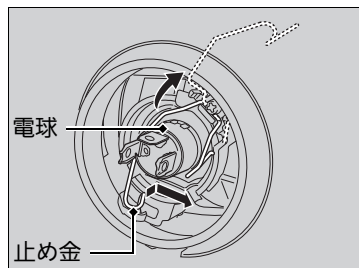
また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。

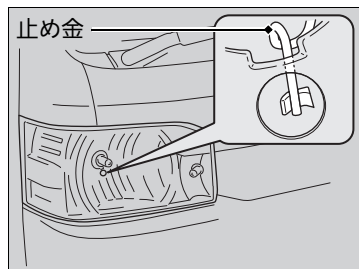
ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。



5. カプラーを抜き取る。
6. ゴムカバーを取り外す。



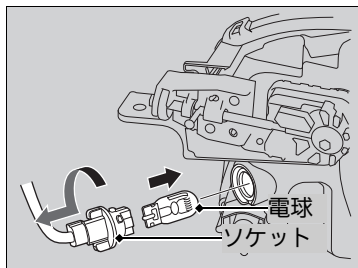
7. 止め金を外し、古い電球を取り外す。
 8. 新しい電球を取り付ける。
 9. 止め金を元に戻し、ゴムカバーを取り付ける。
- ▶ 止め金の状態は、ヘッドライトの確認窓より確認できます。
10. カプラーを取り付ける。



前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯：12V-21W(橙色)

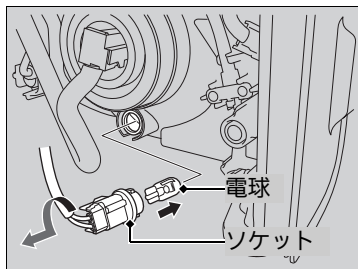


1. ヘッドライト本体を取り外す。
 ■ ヘッドライト電球 P.127
2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

車幅灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

車幅灯：12V-5W

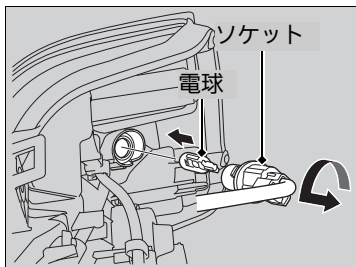


1. ヘッドライト本体を取り外す。
 ■ ヘッドライト電球 P.127
2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯：12V-5W(橙色)

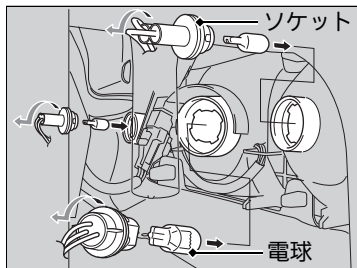


1. ヘッドライト本体を取り外す。
■ ヘッドライト電球 P.127
2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

制動灯 / 尾灯、後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯、後退灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

制動灯 / 尾灯	: 12V-21/5W
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	: 12V-16W
後退灯	: 12V-16W

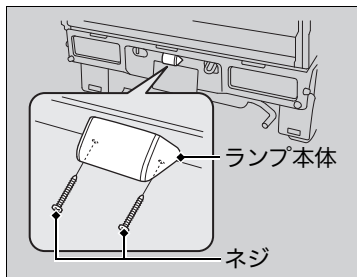


1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

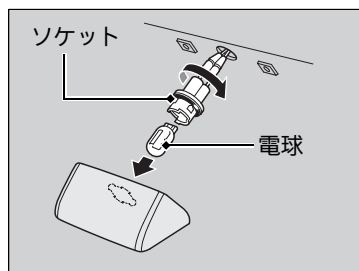
番号灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

番号灯：12V-5W



1. ネジを外してランプ本体を外す。



2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。

3. 新しい電球を差し込む。

番号灯電球

ランプ本体を取り付けるときは、ネジを締めすぎないようにしてください。

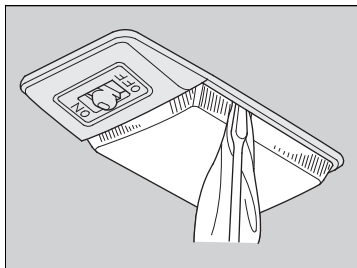
レンズを破損するおそれがあります。

その他の電球

室内灯電球

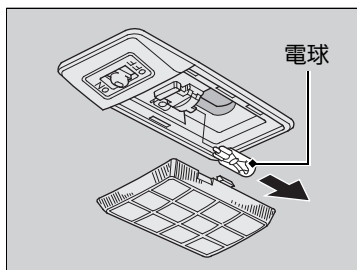
交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

室内灯：12V－5W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。

▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

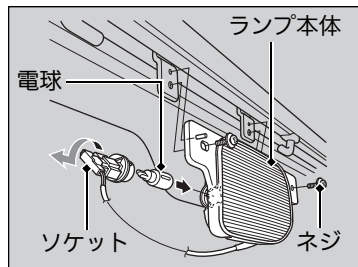


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

■ 荷台作業灯電球*

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

荷台作業灯：12V－16W



1. ネジをゆるめてランプ本体を外す。
2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

■ 荷台作業灯電球*

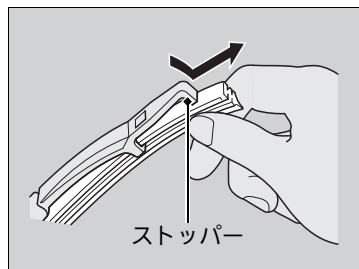
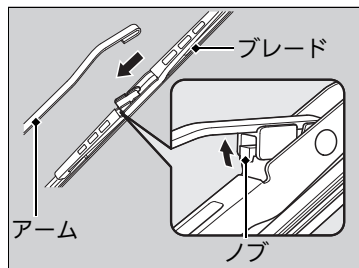
ランプ本体を取り付けるときは、ネジを締めすぎないようにしてください。

ランプ本体を破損するおそれがあります。

ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

ワイパーブレードラバーの交換



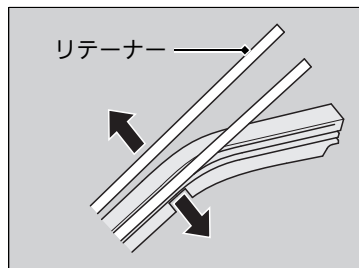
1. ワイパーアームを起こす。
2. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。
3. ラバーの先端部がブレードのストッパーから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

※ワイパーブレードラバーの交換

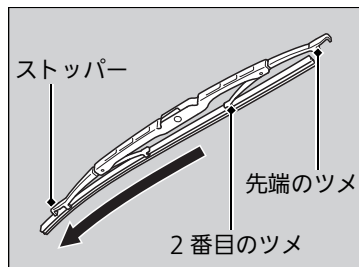
アドバイス

ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

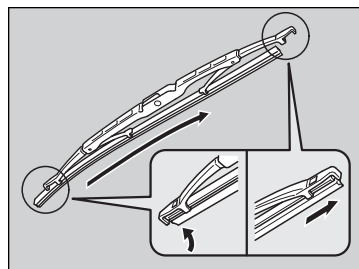
ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。



4. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。



5. ラバーをブレードの2番目のツメから差し込み、反対側のストッパーから約 2cm 引き出す。



6. ブレードの先端のツメにラバーを通して固定する。
▶ 正しく固定されているか確認してください。その後ブレードをワイパーアームに取り付けます。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができません。いばかりか乗り心地も損なわれます。

安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
 - ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
 - ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

■タイヤの点検について



警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。

取扱説明書が手元にならない場合は、車のラベルをご覧ください。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

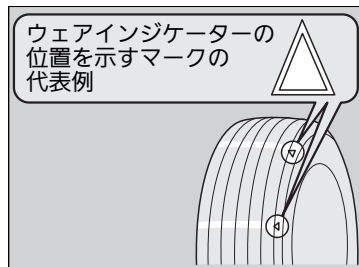
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

🔧仕様 P.178

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？



ウェアインジケーター(摩耗限界表示)

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

🔍タイヤの点検について

タイヤの残溝の深さが 2.4mm 未満のときは、80km/h以上の高速走行をしないでください。

標準タイヤの仕様

サイズ	空気圧
145R12-6PR LT	前輪: 280kPa (2.8kgf/cm ²) 後輪: 350kPa (3.5kgf/cm ²)

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての4つのタイヤを交換することをお奨めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

⚠️ タイヤとホイールの交換



警告

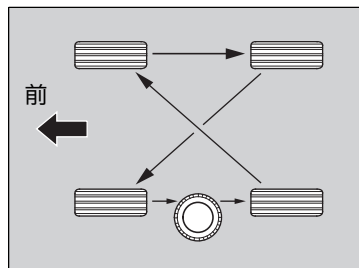
必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

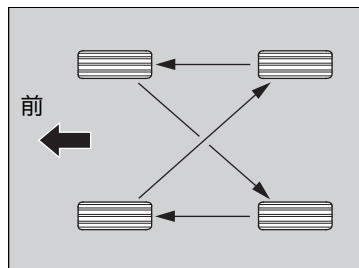
5,000km 走行したときタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■スペアタイヤを使う場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

■スペアタイヤを使わない場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

※タイヤのローテーション

アドバイス

前輪と後輪でタイヤの空気圧が異なるので、位置交換後は必ず空気圧を調節してください。

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。

また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。

装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

スノータイヤの場合：

- ・ 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- ・ 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーンの場合：

お求めは Honda 販売店へお申し付けください。

タイヤサイズ	適合チェーンサイズ
145R12-6PR LT	スチールチェーン 45170 (新 JIS)

- ・ タイヤチェーンは後輪に装着する
- ・ タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ・ ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ・ ゆっくり走行する

スチールチェーン以外のタイヤチェーンをご使用になる場合は、タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがって、正しく取り付けてください。

❏ 冬期のタイヤ

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。

チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

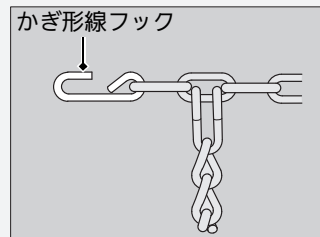
タイヤチェーンは、2WD 車、4WD 車ともに後輪に装着します。

前輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

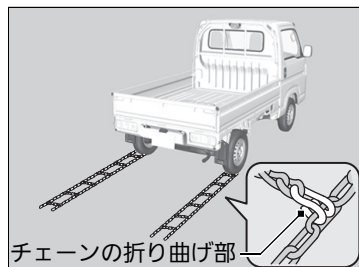
タイヤチェーンを装着したときは、30km/h 以下の速度で走行してください。

なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

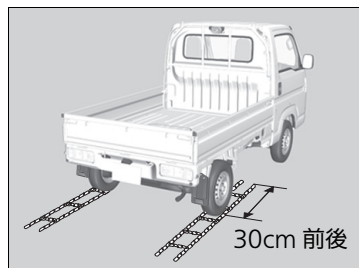
スチールチェーンは内側のフック形状が、かぎ形線フックのものをお使いください。



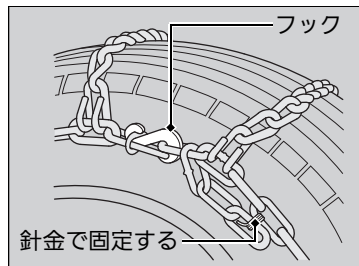
■タイヤチェーンの取り付けかた



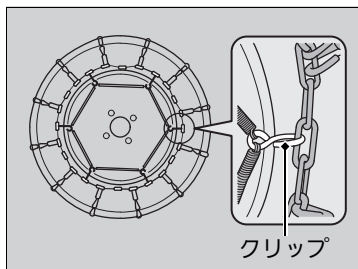
1. 前輪を直進状態にする。
2. チェーンの折り曲げ部が下側になるようにしてチェーンを後輪のすぐ後ろに敷く。



3. 先端のフックから 30cm 前後の位置まで後輪を移動させる。



4. チェーンをタイヤに巻きつけていっぱい引き、内側のフックを連結する。
5. 外側のフックを連結する。
▶ 連結してチェーンが余った場合は、ボディなどに当たるのを防ぐために針金で固定します。



6. チェーンバンドのクリップを外向きにしてチェーンをいっぱい張る。
7. 試走してチェーンのゆるみ、はずれなどがないか確認する。

キーレスエントリー一体キー*

キーレスエントリー一体キーの取り扱いと電池交換

■ 取り扱いについて

キーレスエントリー一体キーの取扱いは、下記の点に注意してください。

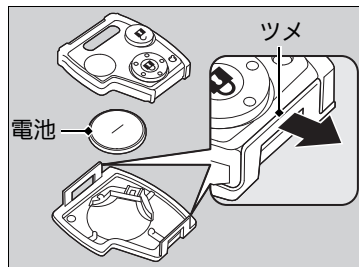
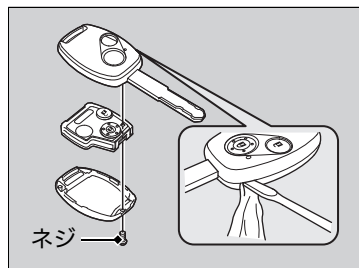
- 発信器を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

▶ 取り扱いについて

キーレスエントリー一体キーをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。
電池を交換してください。



ボタン電池 CR1616

1. 発信器下部のネジを外し、カバーを開く。
▶ カバーに傷が付かないように、マイナスドライバーに布などを巻いてカバーを取り外します。
2. ツメを引いてケースを開ける。
3. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。
▶ 交換後、もとのように組み立て、ネジをしっかり締めてください。

電池交換のしかた



警告

ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。
重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda販売店で交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。

確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

車内の清掃

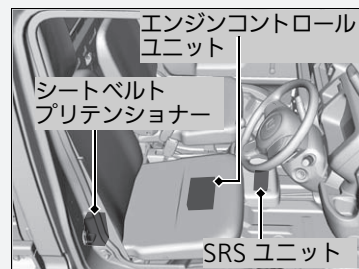
内装の清掃は、掃除機で塵や埃を取り除いてから汚れを落としてください。ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

車内の清掃

室内に水をかけないでください。

オーディオやスイッチなどの電装品に水がかかると故障の原因となります。

また、センターコンソール内には SRS ユニットが装着されています。その周囲に水がかかると、SRS ユニットが正常に作動しなくなるおそれがあります。



■シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■スーパーUV カット*/IR カット* ドアガラスのお手入れ

ドアガラスの車内側に UV カット膜や IR カット膜がコーティングしてあります。水またはぬるま湯を含ませた布などで汚れを拭き取ってください。

※車内の清掃

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。

故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起すことがあります。

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。

使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

※ガラスのお手入れ

スーパーUV カット / IR カットドアガラス装備車

UV カット膜やIR カット膜を長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない

車外の清掃

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

■洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

■自動洗車機を使うとき

- 自動洗車機に記載されている指示にしたがう
- ドアミラーを格納する
- ホイールカバー装備車は、自動洗車機のホイール専用ブラシを使わない
- アンテナを格納する

■高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ドアガラスやドアまわりなど開閉部分は、特に注意する
 - ▶ 近づけすぎると室内に水が入ることがあります。
- エンジンルームには水をかけない

■車外の清掃

故意に空気取り入れ口に水をかけないでください。

故障の原因になります。



■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面温度が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。

これは雨天時などに窓ガラスが曇のと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。

また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水滴が付いている場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

※ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

※バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
 - ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。
また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクタは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。

それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。
装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

※アクセサリーと改造



警告

**不正改造は、法律に触れることはもちろん、
思わぬ事故につながる可能性があります。**
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思
わぬ事故につながる可能性があります。

電装品の分解、改造は行わないでください。
故障や火災など思わぬ事故につながる可
能性があります。

車の性能、品質を維持するために、Honda 車
に最も適した Honda 純正部品をお使いくださ
い。

純正部品には下記のマークが付いています。

HONDA

GENUINE PARTS

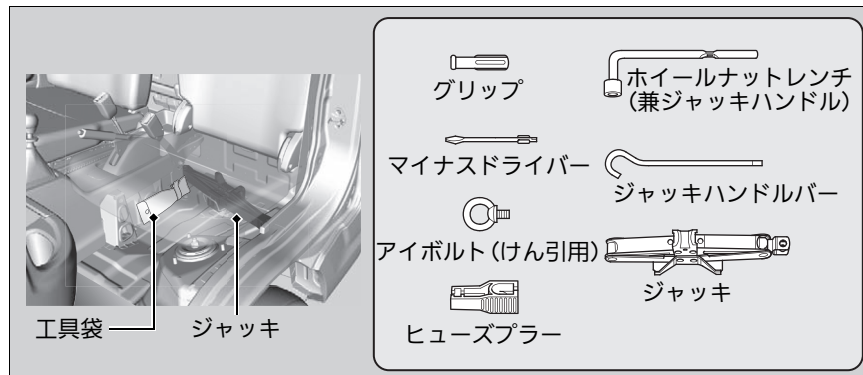
お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご
相談ください。

万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

工具、発炎筒	152
パンクしたとき	153
エンジンが始動しない	161
ジャンプスタート	162
セレクトレバーが動かない	165
オーバーヒート	166
警告灯の点灯 / 点滅	167
ヒューズ	
ヒューズの設置場所	170
各ヒューズの装備と容量	171
ヒューズの点検と交換	172
けん引	173

工具の種類



発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。

発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

➡ 発炎筒 P.1

工具の種類

工具類は助手席側のシート下に収納されています。

発炎筒

警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。

火災や爆発のおそれがあります。

注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故やけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故やけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたタイヤの交換

運転中にタイヤがパンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。その後、スペアタイヤに交換します。パンクしたタイヤの点検や交換は、Honda 販売店に依頼してください。

走行中、パンクに気がついたときは

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. セレクトレバーを **P** に入れる。(オートマチック車)
3. パーキングブレーキをかける。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、エンジンスイッチを **0** にする。

タイヤ交換の準備



1. レバーを引いて、助手席側のシートクッションを引き起こす。
▶ 直立するまで引き起こすと、固定されます。

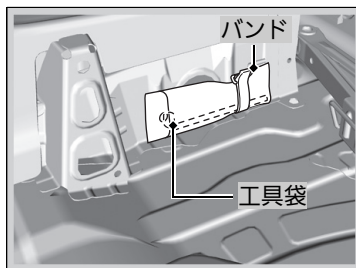
▶パンクしたタイヤの交換

⚠ 注意

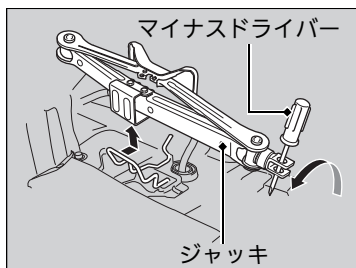
キャリアからタイヤを取り出すときや収納するときはエンジンを停止する。

エンジンをかけたままにすると排気管でやけどを負うおそれがあります。

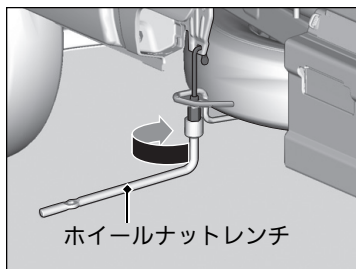
スペアタイヤの空気圧は使うときに調整してください。やむをえず、未調整のまま走る場合は、速度を控えめにしてください。



2. バンドを外して工具袋を取り出す。



3. マイナスドライバーを使用してジャッキをゆるめて外す。



4. ホイールナットレンチを使用して、固定ボルトをゆるめる。

❏タイヤ交換の準備

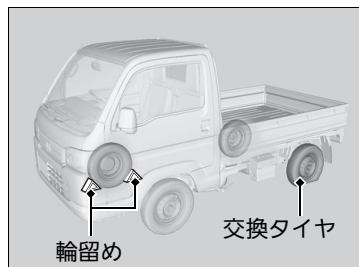
⚠ 注意

固定ボルトをゆるめすぎない。

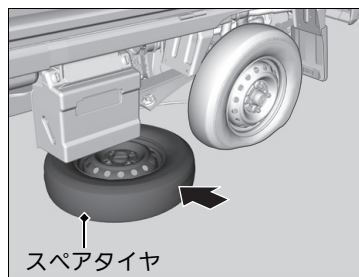
フックが固定ボルトから外れ、キャリアが落下し、足などにけがをするおそれがあります。



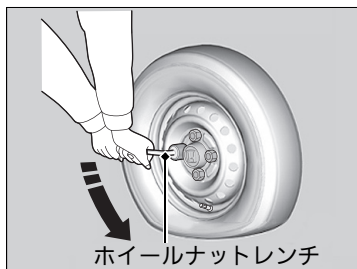
5. フックからキャリアを外し、スペアタイヤを引き出す。



6. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪留めをする。

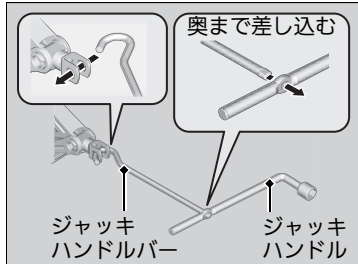
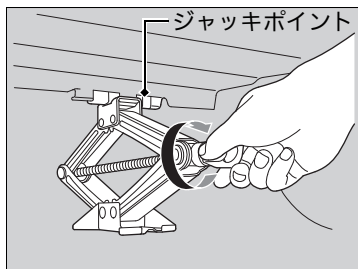
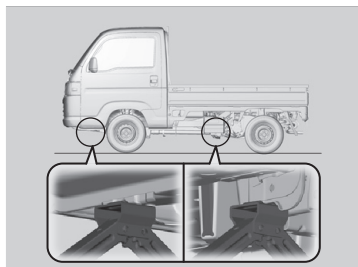


7. スペアタイヤを交換するタイヤ近くの車体の下に、ホイール表面を上にして置く。



- 8.** ホイールナットをホイールナットレンチ
で約 1 回転ゆるめる。

ジャッキのかけかた



1. 交換するタイヤにもっとも近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。

2. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分に矢印の方向に回す。

▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。

3. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

ジャッキのかけかた

⚠ 警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。

車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠ 注意

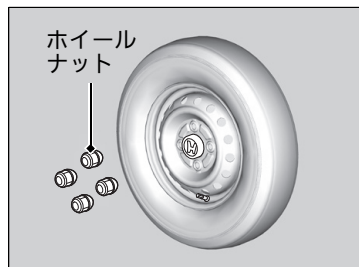
ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

- エンジンをかけたままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にものを入れたりしない

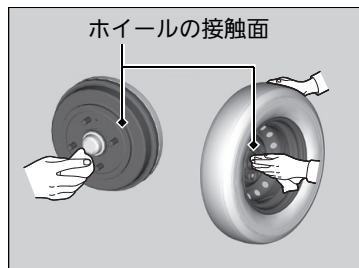
この車に搭載されているジャッキをお使いください。

他のジャッキでは支えられる重量(呼称重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

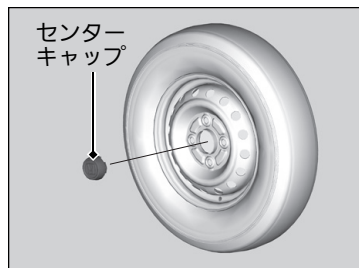
■タイヤの交換



1. ホイールナット、ホイールカバー*を外し、タイヤを外す。



2. ホイールの接触面を拭き取る。



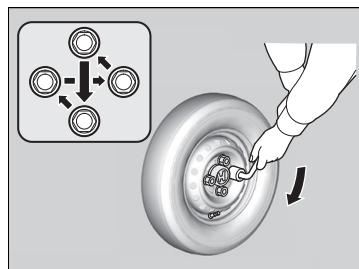
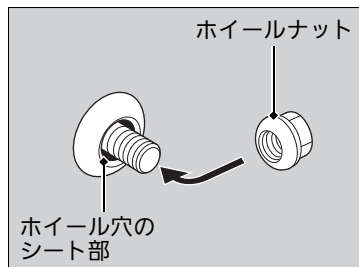
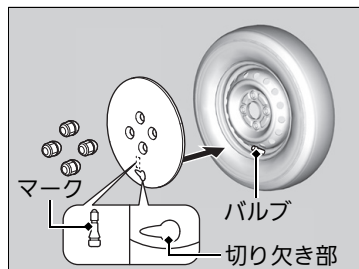
3. センターキャップ*を付けかえる。

※タイヤの交換

ホイールカバー装備車

ホイールカバーは、ホイールナットを外さないと取り外しできません。

ドライバーなどで無理にこじらないでください。



4. スペアタイヤを取り付ける。

▶ ホイールカバー*を取り付けるときは、切り欠き部(マーク部)がバルブの位置にくるようにします。

5. ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締める。

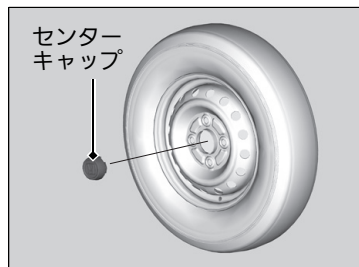
6. ジャッキをおろし、図の順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかりと締め付ける。

締め付けトルク 98～118N・m
(10.0～12.0kgf・m)

❏タイヤの交換

レンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め付けないでください。

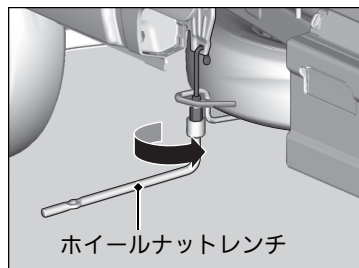
■パンクしたタイヤの収納



1. パンクしたタイヤのセンターキャップ*を外す。



2. ホイール表面を上にして取り付け、フックにキャリアをかける。



3. ホイールナットレンチで、ゆるみ、ガタがないように固定ボルトを十分に締め付ける。

▶パンクしたタイヤの収納

⚠ 注意

タイヤを取り付けた後は、確実に固定されていることを確認する。

ゆるみ等により取り付けが不安定な状態になっていると、走行中に外れるなどして思わぬ事故の原因となるおそれがあります。

取り外しや収納するときに、手などをはさまないように十分注意する。

エンジンが始動しない

エンジンの状態の確認

エンジンが始動しない場合、エンジンスイッチを **III** にして、スターターの状態を確認してください。

エンジン状態の確認

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

➡ ジャンプスタートの方法 P.162

スターターの状態	確認項目
スターターが全く回らない！ スターターの回転が非常に遅い！ バッテリーがあがっていることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	室内灯などの明るさを確認する 室内灯などを点灯し、明るさを確認します。 - 室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合 - 室内灯などの明るさに問題がない場合 ➡ ヒューズの点検と交換 P.172
スターターは正常に回るが… ヒューズに問題があることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	エンジン始動の手順を実行する もう一度、正しいエンジン始動操作をしてみてください。 ➡ エンジンの始動 P.98 燃料の量を点検する 燃料が入っているか確認してください。 ➡ 燃料計 P.41 ヒューズを点検する 全てのヒューズを確認してください。 ➡ ヒューズの点検と交換 P.172

以上の確認をしてもエンジンが始動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ジャンプスタート

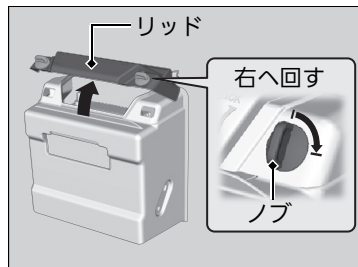
ジャンプスタートの方法

処置のしかた

まず、バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。

次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。

ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。



1. 自車と救援車のエンジンスイッチを **0** にする。
2. ノブを右に回して、リッドをあける。

ジャンプスタートの方法

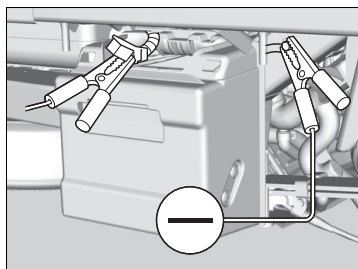
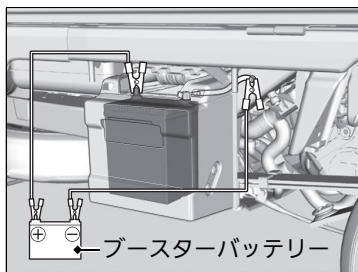


警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。

ジャンプスタートの操作を間違えると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。

タバコの火、火花、炎をバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。



3. ブースターケーブルを、自車のバッテリーの⊕端子に接続する。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの⊕端子に接続する。
▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。
5. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの⊖端子に接続する。
6. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのアース端子に接続する。
7. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
8. 自車のエンジンを始動する。

※ジャンプスタートの方法

アドバイス

気温が極端に低い場所にバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。

バッテリー液が凍結したバッテリーでジャンプスタートすると、バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、バッテリーの性能が低下します。

エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。

ケーブルをエンジンのアース以外の端子に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。

バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

■エンジン始動後の作業

自車のエンジンが始動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのアース端子からケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの⊖端子から外す。
3. 自車のバッテリーの⊕端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの⊕端子から外す。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

■エンジン始動後の作業

⚠警告

バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。

バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店でバッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。

- ・万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも5分間以上洗浄する
- ・飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

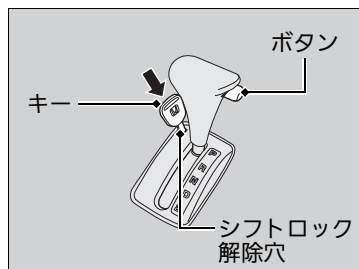
ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

セレクトレバーが動かない

オートマチック車

セレクトレバーが、**[P]** の位置でロックされて動かなくなったら、下記の方法で解除してください。

■ロックを解除する



1. パーキングブレーキをかける。
 2. エンジンスイッチからキーを抜く。
 3. シフトロック解除穴にキーを差し込む。
 4. キーを押しながらセレクトレバーのボタンを押し、セレクトレバーを**[N]**に入れる。
- ▶ ロックが解除されました。Honda 販売店で、早めに点検を受けてください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 高水温警告灯が点灯したり、エンジンの力が急に落ちる
- フロントコンパートメントやエンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にする事

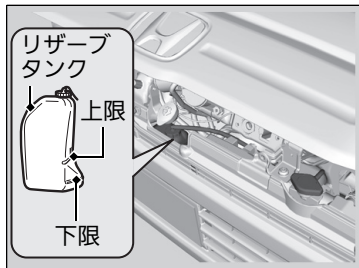
1. ただちに車を安全な場所に停める。

- ▶ セレクトレバーを[P]に入れ(オートマチック車)、パーキングブレーキをかけます。すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。

2. 蒸気が出ていない場合：エンジンをかけたままボンネットを開ける。

蒸気が出ている場合：エンジンを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

■次にすること



1. 冷却ファンの作動を確認し、高水温警告灯が消灯してからエンジンを停止する。

- ▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを停止します。

2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。

- ▶ 冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動し高水温警告灯を確認する。警告灯が消灯している場合は、運転を再開します。点灯しているときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

※オーバーヒートしたときの対処方法

⚠ 警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。

ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。

冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス

高水温警告灯が点灯した状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

油圧警告灯が点灯した



■点灯の理由

エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると点灯します。

■点灯したらすぐのこと

1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること

1. エンジンを停止し、3 分間ほど放置する。
2. エンジンオイルの量を確認する。
 - ▶ 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
3. エンジンを始動し、油圧警告灯を確認する。
 - ▶ 消灯した：運転を再開してください。
 - ▶ 10 秒以内に消灯しない：エンジンを停止して、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

充電警告灯が点灯した



■点灯の理由

バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること

電気の消費を減らすため、ヒーター・エアコンスイッチなどを OFF にして、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

※油圧警告灯が点灯した

アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

※充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、エンジンを停止しないでください。

エンジンを始動すると、バッテリーが急速に放電します。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由

エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。

■点灯したときは

高速走行を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。

ブレーキ警告灯が点灯した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

※PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

点灯したときは

PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

点滅したときは

エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。

※ブレーキ警告灯が点灯した

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。

ABS 警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS が異常のときに点灯します。
- 停車中にエンジンの空ぶかしを行うと点灯し、ハンドルが重くなる場合があります。

■点灯したらすること

安全な場所に停車し、エンジンを再始動する。

その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

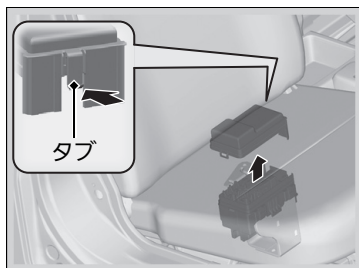
ヒューズ

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、エンジンスイッチを **0** にして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、2つのヒューズボックスに入っています。

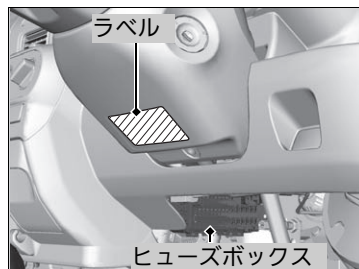
運転席下のヒューズボックス

運転席をいっぱいまで前に出し、背もたれを前に倒すとあります。タブを押して開けてください。



運転席足元のヒューズボックス

運転席の足元にあります。



運転席下のヒューズボックス

ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

運転席足元のヒューズボックス

ステアリングコラムの下に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

各ヒューズの装備と容量

容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

運転席下

表示	装備	容量
1 	バッテリー	50A
2 	EPS	40A
3 —	—	—
4 	ABS	(40A)
5 	ABS	(20A)
6 	非常点滅表示灯	10A
7 	ホーン / 制動灯	10A
8 	冷却ファン	30A
9 	エアコン	7.5A
10 	バックアップ	10A
11 	右側ヘッドライト*	(10A)
12 	左側ヘッドライト*	(10A)

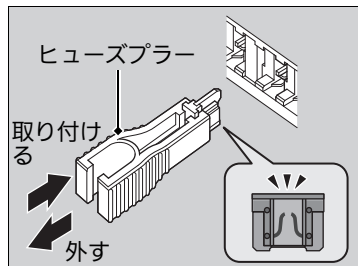
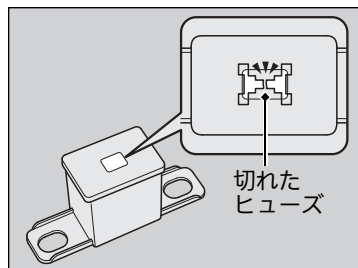
運転席足元

表示	装備	容量
1 	SRS エアバッグシステム	7.5A
2 	SRS エアバッグシステム	10A
3 	ABS/EPS	7.5A
4 	メーター	7.5A
5 	ACG	7.5A
6 	後退灯	7.5A
7 	ワイパー	20A
8 —	—	—
9 	イグニッションコイル	15A
10 	パワーウィンドー*	(10A)
11 	フューエルポンプ	15A
12 —	—	—
13 	ドアロック(アンロック)	(15A)
14 	ドアロック(ロック)	(15A)
15 —	—	—
16 —	—	—
17 —	—	—
18 —	—	—
19 	右側ヘッドライト	10A
20 —	—	—

表示	装備	容量
21 	LAF	10A
22 	車幅灯	10A
23 —	—	—
24 	左側ヘッドライト	10A
25 	FI MAIN	15A
26 —	—	—
27 	運転席パワーウィンドー*	(20A)
28 	助手席パワーウィンドー*	(20A)
29 —	—	—
30 —	—	—
31 	ヒーターモーター	30A
32 	シガーライター*	20A
33 	アクセサリ	7.5A
34 —	—	—
35 	—	(15A)
36 —	—	—
37 	エアコン	7.5A
38 —	—	—
39 	ドアロック	(30A)

※：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ヒューズの点検と交換



1. エンジンスイッチを **0** にし、ヘッドライトとすべてのアクセサリを OFF にする。
2. 運転席下の大きいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。
3. 運転席下と運転席足元の小さいヒューズを点検する。
▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

※ヒューズの点検と交換

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。
交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。

※各ヒューズの装備と容量 P.171

工具袋には、ヒューズプラーが入っています。

ヒューズプラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

AM/FM チューナー付 CD プレーヤー 装備車
オーディオのヒューズが切れると、ラジオにセットされた周波数が消去されます。

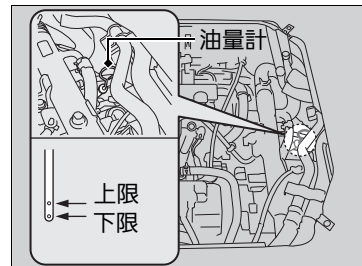
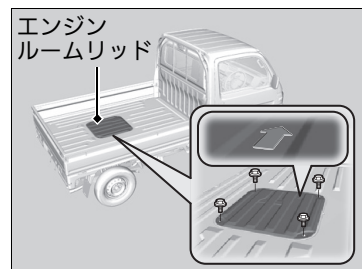
非常時のけん引

けん引は専門業者に依頼して 2WD 車は四輪または後輪、4WD 車は四輪を持ち上げて行ってください。

やむをえずけん引される場合

やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合、次の方法で行ってください。ただし、デフロック装備車の場合、必ずデフロックを解除しておいてください。

❑ 後輪差動制限装置(リヤデフロック)* P.107



オートマチック車

1. ボルト (4 本) を外し、エンジンルームリッドを外す。

2. トランスミッションフルードの量が、油
量計の目盛りの上限と下限の間にあるこ
とを確認する。

▶ 下限より下がっている場合は、四輪ま
たは後輪を接地させてのけん引は行わ
ないでください。

共通操作

3. 工具袋を取り出す。

❑ タイヤ交換の準備 P.153

4. 工具袋からジャッキハンドルバー、アイ
ボルトを取り出す。

❑ 非常時のけん引

アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引する
と、バンパーがいじりしく損傷します。

バンパーは車の重量を支えるようにはでき
ていません。

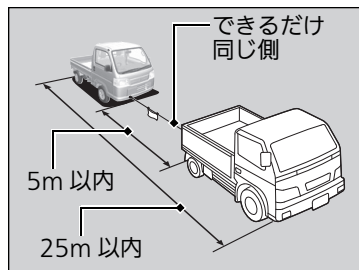
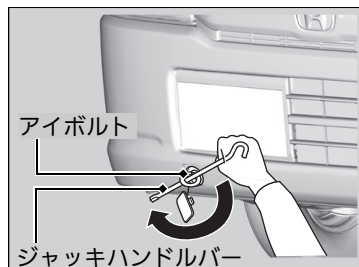
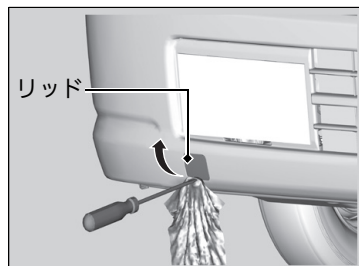
車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常
があると思われるときは、2WD 車は四輪また
は後輪、4WD 車は四輪を持ち上げてけん引し
てください。

❑ やむをえずけん引される場合

オートマチック車

リッドは熱くなっていることがありますの
で、取り扱いにはご注意ください。

取り付けるときは、リッドの矢印を車両の前
方に向けます。



5. マイナスドライバーの先でリッドを開ける。
▶ バンパーが傷付かないよう、マイナスドライバーの先に布などを巻き付けてください。
6. アイボルトがガタつかない程度まで手で締め付けてから、ジャッキハンドルバーで確実に締め付ける。
7. ロープをアイボルトにかけ、ロープ中央部に白い布(0.3m 平方以上)を付ける。
8. マニュアル車は、エンジンを始動する。オートマチック車は、エンジンを始動してセレクトレバーを **[D]** にし、約 5 秒間保持する。
▶ エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを **[I]** または **[II]** にします。
9. セレクトレバーまたはチェンジレバーを **[N]** (ニュートラル) にする。
10. パーキングブレーキを解除する。
11. けん引する。
▶ けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。
▶ オートマチック車は、速度30km/h 以下、走行距離80km 以内でけん引してください。

※非常時のけん引

アドバイス

アイボルト以外のところにロープをかけないでください。

車体が破損、変形する場合があります。

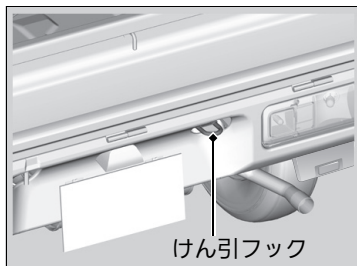
エンジンが停止している状態でのけん引は、以下のことに注意してください。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる
- マニュアル車は、エンジンスイッチを **[0]** にすると、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなるため、事故につながるおそれがある

長い下り坂では、ブレーキの温度が上がりブレーキが効かなくなるおそれがありますので、レッカー車にけん引してもらってください。

■ やむをえず他車をけん引する場合

やむをえず他車のけん引を行う場合、車両後方にあるけん引フックにロープをかけてください。



☒ やむをえず他車をけん引する場合

アドバイス

けん引フック以外のところにロープをかけないでください。

車体が破損、変形する場合があります。

ロープやチェーンなどを使ってけん引するときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。

そのままけん引すると、車体に傷が付くことがあります。

自車より重い車のけん引は避けてください。

けん引ロープはできるだけ伸縮性のあるロープを使用してください。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

仕様 177

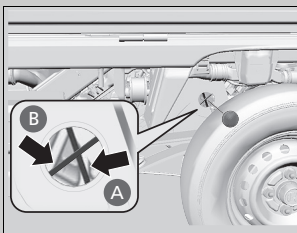


■仕様

名称	アクティ
排気量	656cm ³
車体形状	トラック
乗車定員	2名

■調整

ベルトの
たわみ量



- A** : 補機ベルト (発電機) 8.0-10.0mm { 約 98N (10kgf) の力 }
- B** : 補機ベルト (エアコンディショナー) 8.0-10.0mm { 約 98N (10kgf) の力 }

点火プラグ	NGK	IFR6C9N
	DENSO	SK20PR-N9

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■確認

ブレーキペダル	遊び	1-10mm 99mm以上 ^{※1} { 約 196N (20kgf) の力 }
	床板とのすき間	101mm以上 ^{※2} { 約 196N (20kgf) の力 }
		97mm以上 ^{※1} { 約 196N (20kgf) の力 }
	カーペットとのすき間(参考値)	99mm以上 ^{※2} { 約 196N (20kgf) の力 }
クラッチペダル ^{※1}	遊び	15-25mm
	床板とのすき間	110mm以上 (クラッチが切れたとき)
	カーペットとのすき間(参考値)	108mm以上 (クラッチが切れたとき)
パーキングブレーキ	引きしろ	8 ~ 12 ノッチ { 約 196N (20kgf) の力 }

※1 : マニュアル車

※2 : オートマチック車

■燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	37 ℓ

■バッテリー

容量 / タイプ	24AH(5) / 28B17L
----------	------------------

■ウォッシャー液

タンク容量	1.5 ℓ
-------	-------

■電球

ヘッドライト(ハイ / ロービーム)	12V-60/55W ^{※1}
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	12V-21W (橙色)
車幅灯	12V-5W
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	12V-5W (橙色)
制動灯 / 尾灯	12V-21/5W
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-16W
後退灯	12V-16W
番号灯	12V-5W
室内灯	12V-5W
荷台作業灯 ^{※2}	12V-16W

※1 : ハロゲンバルブ

※2 : 荷台作業灯装備車

仕様

■フロントデファレンシャルオイル 4WD 車のみ

指定液	Honda 純正ウルトラ HGO-Ⅱ
規定量	0.46 ℓ (交換時)

■エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式
-----	----

■ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4
-----	-----------------------------------

■トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正 ウルトラ ATF-Z1	1.5 ℓ (交換時) ^{※2}
	Honda 純正 ウルトラ MTF-III	1.2 ℓ (交換時) ^{※1}
		1.4 ℓ (交換時) ^{※3}

- ※1 : マニュアル車
※2 : オートマチック車
※3 : ATTACK

■推奨エンジンオイル

Honda 純正 エンジンオイル	ウルトラ LEO SN	API SN 以上 SAE 0W-20 ^{※1}
	ウルトラ LTD SN	API SN 以上 SAE 5W-30
規定量	オイル交換時	2.5 ℓ
	オイル、オイルフィルター同時交換時	2.7 ℓ

- ※1 : 0W-20 は、最も省燃費性に優れたオイルです。

■冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	4.9 ℓ (交換時 : リザーブタンク 0.9 ℓ 含む) ^{※1}
	5.4 ℓ (交換時 : リザーブタンク 0.9 ℓ 含む) ^{※2}

- ※1 : マニュアル車
※2 : オートマチック車

■最大積載量

350kg

■タイヤ

サイズ	145R12-6PR LT
空気圧	前輪 280 (2.8)
kPa (kgf/cm ²)	後輪 350 (3.5)
リムサイズ (スチールホイール)	12×3.50B

数字

4WD(四輪駆動機構)..... 109

A

A/C(エアコン)..... 73

ABS(アンチロックブレーキシステム)..... 112

ABS警告灯..... 39

AM/FMチューナー付CDプレーヤー..... 86

CDプレーヤーの使いかた..... 92

各部の名称..... 86

基本操作..... 88

ラジオの使いかた..... 90

AM/FMラジオ..... 82

各部の名称..... 82

基本操作..... 83

ラジオの使いかた..... 84

AT(オートマチックトランスミッション) .. 103

E

EPS(電動パワーステアリング)システム

警告灯..... 39, 169

M

MIST..... 60

MT(マニュアルトランスミッション)..... 106

P

PGM-FI警告灯..... 37, 168

S

SRSエアバッグ..... 25

エアバッグシステム警告灯..... 28, 38

W

W(ワット)数..... 177

ア

アイボルト..... 152

アクセサリ..... 150

アシストグリップ..... 3

安全に関する表示..... 15

安全のための確認事項..... 19

アンチロックブレーキシステム(ABS)..... 112

ABS警告灯..... 39

アンテナ..... 81

マニュアルアンテナ..... 81

イ

一酸化炭素の危険性..... 35

ウ

ウィンカースイッチ(方向指示器)..... 59

ウィンドーの開閉..... 56

ウィンドウォッシャー

ウィンドウォッシャー液の補給..... 126

ウィンドウォッシャースイッチ..... 60

ウェアインジケーター..... 138

運転

エンジンの始動..... 98

シフト操作..... 104, 106

ブレーキ操作..... 110

エ

エアコン..... 73

エアコンの使いかた..... 74

窓の曇りや霜の取りかた..... 78

モード切り換えダイヤル..... 74

エアバッグ..... 25

SRSエアバッグ..... 25

エアバッグシステム警告灯..... 28, 38

エアバッグシステム故障診断記録装置..... 15

エアバッグのお手入れ..... 28

エンジンオイル..... 125

推奨エンジンオイル..... 125, 178

油圧警告灯..... 37, 167

エンジンスイッチ..... 58

エンジンの始動	98
エンジンが始動しない	161
ジャンプスタート	162
エンジンルームリッド	173
エンジン冷却水	166, 178

オ

追越合図(パッシング)	59
オーディオ装置	80
オーバーヒート	166
冷却水	166, 178
オドメーター	43

カ

鍵(かぎ)	47
ガソリン	115, 177

キ

キー	
キーが[0]から[1]に回らない	13
キーが[1]から[0]に回らない	13
キー閉じ込み防止装置	50
キーナンバータグ	48
キーの種類と機能	47
キーレスエントリー	47, 49
キーレスエントリーでドアが開かない	13
電池交換のしかた	145

キー閉じ込み防止装置	50
キーナンバータグ	48
キーレスエントリー	47, 49
電池交換のしかた	145
キックダウン	103
給油	115
給油のしかた	116
燃料計	41
燃料残量警告灯	38

ク

空気圧	178
グラブレール	3
クリープ現象	103
グリップ	152
車の改造	150
グローブボックス	69

ケ

計器	36
警告灯	37
ABS警告灯	39
EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	39, 169
PGM-FI警告灯	37, 168
エアバッグシステム警告灯	28, 38
高水温警告灯	38
シートベルト非着用警告灯	21, 38

充電警告灯	37, 167
トランスミッション警告灯	38
燃料残量警告灯	38
ブレーキ警告灯	37, 168
油圧警告灯	37, 167
警告灯の点灯/点滅	167
けん引	173

コ

交換

後退灯電球	131
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯電球	131
室内灯電球	133
車幅灯電球	129
制動灯/尾灯電球	131
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯電球	129
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球	130
荷台作業灯電球	134
番号灯電球	132
ヘッドライト電球	127
ワイパーブレードドラパー	135

工具

高水温警告灯	38
後退灯	131
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	131
後輪差動制限装置(リヤデフロック)	107

コンビニフック	72
---------------	----

サ

サービス診断記録装置	15
データの開示について	16
サイドアンダーミラー	64
サンバイザー	3

シ

シート	65
シートの調節	65
シートベルト	20
シートベルトの着用	22
シートベルトの点検	24
シートベルト非着用警告灯	21, 38
シートベルトプリテンショナー	21
シートベルトリマインダー	21
妊娠中のかたのシートベルトの着用の しかた	23
シガレットライター	70
時刻の設定	45
室内装備品	69
室内灯	68
指定燃料	115, 177
シフト操作	104, 106
車外の清掃	148
ジャッキ	152, 157

ジャッキハンドル(ホイールナット レンチ)	152, 154, 157
ジャッキハンドルバー	152, 157
車内の清掃	146
車幅灯	129
ジャンプスタート	162
充電警告灯	37, 167
仕様	177

ス

スイッチ操作	
エンジンスイッチ	58
デフロックスイッチ	107
荷台作業灯スイッチ	61
ヘッドライトレベリングダイヤル	62
方向指示器(ウィンカースイッチ)	59
ライトスイッチ	59
ワイパー/ウォッシャー	60
スパークプラグ	177
スピードメーター	41

セ

清掃	146
制動灯	131
セレクトポジション	104
セレクトポジション表示灯	105
セレクトポジション表示灯	40

セレクトレバー

セレクトレバーが動かない	165
セレクトレバーの操作	105
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯	129

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球 ..	130
------------------------	-----

タ

タイヤ	137
ウェアインジケーター	138
指定空気圧	178
スベアタイヤ	155
タイヤとホイールの交換	139
タイヤの点検	137
タイヤのローテーション	140
冬期のタイヤ	141
パンク	153

チ

チェンジレバーの操作	106
チャイルドシート	29
ジュニアシート	34
乳児のチャイルドシート	30
幼児のチャイルドシート	30
駐停車操作	113

テ

低水温表示灯	40
デフロスター	78
デフロックスイッチ	107
点火プラグ	177
電池交換	145

ト

ドアの施錠と解錠	47
キー閉じ込み防止装置	50
キーナンバータグ	48
キーの種類と機能	47
キーレスエントリー	47, 49
キーレスエントリーでドアが開かない	13
車外でのドアの施錠/解錠	49
車内での施錠/解錠	51
ドアミラー	63
冬のタイヤ	141
時計	45
ドライバー	152
トラブルシューティング	
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る	14
エンジンが始動しない	161
オーバーヒートした	166
キーが0から1に回らない	13
キーが1から0に回らない	13
キーレスエントリーでドアが開かない	13
警告灯が点灯/点滅した	167

けん引してもらいたい	173
ジャンプスタートしたい	162
セレクトレバーが動かない	165
走行するとブザーが鳴る	14
ハイオクガソリンは使える?	14
パンクした	153
ヒューズが切れた	170
ブレーキを踏むと音がする	14
ブレーキを踏むと振動する	13
トランスミッション警告灯	38
トランスミッションフルード	178
トリップメーター	43
ドリンクホルダー	70

ニ

荷台ゲートの操作	52
荷台作業灯	61
電球の交換	134

ネ

燃料	115, 177
燃料計	41
燃料残量警告灯	38

ハ

パーキングブレーキ	110
排気ガスの危険性	35

灰皿	71
ハイビーム	59
電球の交換	127
ハイビーム表示灯	40
ハザードスイッチ	表紙ウラ
発炎筒	152
バッシング	59
バッテリー	
ジャンプスタート	162
充電警告灯	37, 167
容量	177
パワーウィンドウの開閉	56
パンク	153
番号灯	132
ハンドルロック	58

ヒ

ヒーター	73
ヒーターの使いかた	74
窓の曇りや霜の取りかた	78
モード切り換えダイヤル	74
非常点滅表示灯スイッチ	表紙ウラ
尾灯	131
ヒューズ	170
各ヒューズの装備と容量	171
ヒューズの設置場所	170
ヒューズの点検と交換	172
ヒューズブラー	152

表示灯	40
後輪差動制限装置(リヤデフロック)作動表示灯	40
セレクトポジション表示灯	40, 105
低水温表示灯	40
ハイビーム表示灯	40
方向指示器表示灯	40
ライト点灯表示灯	40

フ

ブースターケーブル	163
ブザー	
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る	14
走行するとブザーが鳴る	14
フューエルキャップの開けかた	116
ブレーキシステム	110
ABS(アンチロックブレーキシステム)	112
パーキングブレーキ	110
フットブレーキ	111
ブレーキ警告灯	37, 168
ブレーキを踏むと音がする	14
ブレーキを踏むと振動する	13
ブレーキフルード	178
ブレーキ警告灯	37, 168

ヘ

ヘッドライト	59
追越合図(パッシング)	59
電球の交換(ハイ/ロービーム)	127
ハイビーム	59
ハイビーム表示灯	40
ライト点灯表示灯	40
レベリングダイヤル	62
ロービーム	59

ホ

ホーンスイッチ	表紙ウラ
ホイールサイズ	178
ホイールナットレンチ(ジャッキハンドル)	152, 154, 157
方向指示器(ウィンカースイッチ)	59
方向指示器表示灯	40
ボンネット内とその他のメンテナンス	123
ウィンドウォッシャー液の補給	126
推奨エンジンオイル	125, 178
ボンネット内とその他のメンテナンス項目	123
ボンネットを開ける	124
冷却水の点検と補給	166

マ

マニュアルウィンドーの開閉	57
---------------	----

ミ

ミラー	63
サイドアンダーミラー	64
ドアミラー	63
ルームミラー	63

メ

メーター	41
スピードメーター	41
燃料計	41
メンテナンス	119
キーレスエントリ一体キー	144
清掃	146
タイヤの点検と整備	137
ボンネット内とその他のメンテナンス	123
メンテナンスに関する注意事項	122
メンテナンスを安全に行うために	121
ライト類の点検と整備	127
ワイパーブレードラバーの点検と整備	135

モ

モード切り換え(エアコン)	74
---------------	----

ユ

油圧警告灯	37, 167
-------	---------

ヨ

四輪駆動機構(4WD) 109

ラ

ライトスイッチ 59

追越合図(パッシング) 59

ハイビーム 59

ハイビーム表示灯 40

ライト点灯表示灯 40

ロービーム 59

ライト類の点検と整備 127

後退灯電球 131

後面方向指示器/後面非常点滅表示灯
電球 131

室内灯電球 133

車幅灯電球 129

制動灯/尾灯電球 131

前面方向指示器/前面非常点滅表示灯
電球 129

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯
電球 130

荷台作業灯電球 134

番号灯電球 132

ヘッドライト電球 127

ラジエーター 166

リ

リザーブタンク 166

リヤデフロック(後輪差動制限装置) 107

ル

ルームミラー 63

レ

冷却水 166, 178

オーバーヒート 166

高水温警告灯 38

低水温表示灯 40

補給 166

ロ

ロービーム 59

電球の交換 127

ワ

ワイパー/ウォッシャー 60

ワイパーブレードラバー 135

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず Honda 販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。

Honda ホームページ <http://www.honda.co.jp/>

(Honda ホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください)

携帯電話からは、携帯電話用 Honda ホームページをご覧ください。

<http://dream.honda.co.jp/dealerlocator/>

※：QR コード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QR コードは (株) デンソーウェーブの登録商標です。



お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客 様相談センター
でもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120-112010 イフレアイオ

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、
あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談
ください。

- ① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、車両番号、登録年月日
- ② 車種名、タイプ名、走行距離 ③ ご購入年月日 ④ 販売店名